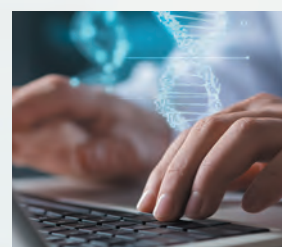




帝京平成大学

帝京平成大学大学院

GUIDE BOOK 2027

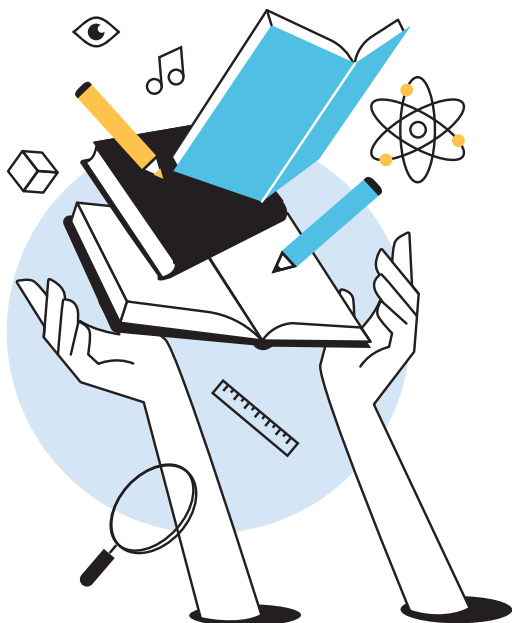


- 薬学研究科
- 情報科学研究科
- 経営学研究科
- 健康科学研究科
- 臨床心理学研究科
- 看護学研究科
- 通信制大学院 情報科学研究科

社会のニーズに応える スペシャリストを養成します。

日々めざましい進歩をとげる現代では、多様な社会的ニーズを生み出す一方で、グローバル化が進む社会に新たな課題を投げかけています。帝京平成大学大学院は、建学の理念でもある“実学の精神”を基に、学際的な幅広い知見と深い知識を持ち、高度な実践能力を身につけた人材を養成します。最新の研究設備を備え、ともにアクセスに恵まれた、池袋・中野の2つのキャンパスにおいて、各研究機関と連携し、様々な実績を誇る指導教員、専門分野の探究にとどまらない学際的なカリキュラムが、本大学院生の研究をサポートしています。充実した環境と教育体制を背景に、薬学・情報科学・経営学・健康科学・臨床心理学・看護学の6つの研究領域を修め、国際社会に通用する幅広い知見と、専門分野で求められる実践能力を持ち、真に社会に役立つことのできるスペシャリストを養成する、これが帝京平成大学大学院の使命と考えます。





CONTENTS

帝京平成大学大学院 2027

お知らせ

健康科学研究科病院前救急医療学専攻／

健康科学研究科健康科学専攻病院前救急医療学分野 名称変更について

2027年度より健康科学研究科病院前救急医療学専攻は健康科学研究科救急医療学専攻へ、健康科学研究科健康科学専攻病院前救急医療学分野は健康科学研究科健康科学専攻救急医療学分野へ名称変更を予定しております。

学長メッセージ

修了生・在学生からのメッセージ

大学院組織・授業時間

課程修了の認定及び学位

社会人学生を対象とした修学支援制度

■薬学研究科 中野キャンパス

薬学専攻(博士課程)

■情報科学研究科 中野キャンパス

情報科学専攻(修士課程)

社会情報学分野・健康情報学分野

情報科学専攻(博士課程)

■経営学研究科 中野キャンパス

経営学専攻(修士課程)

■健康科学研究科 池袋キャンパス

鍼灸学専攻(修士課程)

柔道整復学専攻(修士課程)

健康栄養学専攻(修士課程)

言語聴覚学専攻(修士課程)

作業療法学専攻(修士課程)

理学療法学専攻(修士課程)

救急医療学専攻(修士課程)*

臨床心理学専攻(博士課程)

健康科学専攻(博士課程)

鍼灸学分野／柔道整復学分野／

健康栄養学分野／言語聴覚学分野／

作業療法学分野／理学療法学分野／

救急医療学分野*

■臨床心理科学研究科 池袋キャンパス

臨床心理学専攻(専門職学位課程)

■看護学研究科 中野キャンパス

看護学専攻(修士課程)

看護学専攻(博士課程)

■通信制大学院 情報科学研究科

情報科学専攻(修士課程)

社会情報学分野・健康情報学分野

学費

2027年度 帝京平成大学大学院 入学者選抜日程

建学の精神／基本理念／使命・目的／沿革

治療の効果を左右する
「未病状態」という課題を
薬剤師の早期介入で解決したい



在学生

上山 彩葵

薬学研究科 薬学専攻

研究テーマ

薬剤師によるヘルスケアの検討



——大学院進学を決めた理由を教えてください。

病院実習で感じた疑問を研究の形にし、臨床と結びつけるためです。

学部時代の病院実習を通して、患者さんによって治療効果や経過に大きな差があることを経験しました。こうした差を生む理由の一つが、低栄養状態など、病気ではないけれど健康とはいえない、いわゆる「未病状態」です。それならば、症状が出てから対応するだけでなく、リスクが高くなる前の段階から薬剤師が関わることに意義があるのではないか。現場で感じたこのような課題を、単に経験だけで終わらせず、研究として形にしたいと思ったのが進学を決意した理由でした。

本学の大学院は、臨床経験を持つ教員の指導のもと、実際の医療現場に直結する研究ができる点が大きな魅力です。現役で臨床現場に身を置いている先生方も多く、臨床と研究を結びつけながら学べる理想的な環境が整っています。

——現在取り組んでいる研究について教えてください。

未病状態を可視化し、
薬剤師が早期に介入できるモデル構築を目指しています。

現在、低栄養や鉄欠乏などの「未病状態」を可視化する研究に取り組んでいます。現状では、薬剤師は症状が明確になってから介入することが多いですが、検査値や患者様の背景などの情報を活用してリスクの高い患者さんを早期に抽出し、より早い段階で薬剤師が介入できるモデルの構築を目指しています。これが実現できれば、患者さんの健康維持や重症化予防に大きく繋がると考えています。

今後の目標は、研究で得た知見を実際の臨床現場に還元し、薬剤師が未病の段階から患者さんに関わることでできる仕組みづくりに取り組むことです。そのためには薬学的知識だけでなく、研究能力やデータ分析能力、他の職種の皆さんと連携するコミュニケーション能力が必要になります。本学での学びを通してこれらの能力をしっかりと磨いていきたいと考えています。

——帝京平成大学大学院を目指す人へのメッセージをお願いします。

柔軟な学修環境で実務と研究を両立し、自分の視野を広げましょう。

私は現在、病院薬剤師として勤務しながら大学院で学んでいます。平日は勤務後に研究や課題を進め、休日の時間も活用して学修していますが、オンラインを活用した授業やいつでも相談しやすい環境など、柔軟に学べる体制に日々支えられています。働きながらでも無理なく学修を継続できる環境が整っているため、実務と研究を両立したい方にもおすすめできると思っています。

大学院での学びは大変なこともありますが、臨床で感じた疑問を深く考え、形にできる非常に貴重な機会です。働きながらでも十分に取り組むことができ、自らの視野が大きく広がりますので、少しでも興味がある方はぜひ挑戦してみてください。

学び続けることで見出した
要介護者のケアシステム研究への道。
同様に挑戦する人を支援します



修了生

小野寺 妙子

情報科学研究科 情報科学専攻

研究テーマ

AIモデルから人間による
臨床診断のためのルールを
導出する手法に関する研究



——大学院への進学理由を教えてください。

様々な分野での実務経験を活かし、変化する社会に対応するためです。

私自身、これまで医療や教育、観光、ITなど様々な分野で経験を積んできました。しかし、社会の急速な変化に対応していくためには、継続的な学びが不可欠だと感じ、再び学びの道に戻することを決意しました。

初めて社会人として学んだのは帝京医療技術専門学校。ここで柔道整復学を学んで医療専門士を取得し、帝京平成大学の科目履修生として柔道整復専科教員の講習修了認定を受けました。その経験を通じ、実務経験と学術的な知識をより深く結びつける場として本学が最適だと考え、情報学の修士課程を修めたうえで博士課程へと進学しました。

——大学院で取り組んだ研究について教えてください。

AIを活用し、要介護者の小さなサインを見逃さない
システム構築に取り組んでいます。

高齢化社会を迎えた日本では、施設の入居者や自宅で介護を受ける方が増加しています。こうした方々と接する際には、相手の精神的・身体的な状態に細心の注意を払う必要があります。そこで博士課程では、AIを利用して要介護者の状況を客観的に把握できるシステムの構築に取り組みました。実現すれば、わずかなサインも見逃さずに適切なケアを行い、必要に応じて迅速に医師へ繋ぐことが可能になります。将来的にこの研究が、専門職のみならず、様々な社会のフィールドで医療を必要とする人を支える仕組みに繋がると考えています。

本学では、AIや情報サイエンス、ビッグデータなど、日々進化する技術に触れられる環境で、これらを問題解決に応用するスキルを磨くことができました。また、指導教員や研究科の先生方から日々温かくも的確な励ましを受けたことも、諦めずに続ける大きな助けになりました。

——帝京平成大学大学院を目指す人へのメッセージをお願いします。

未来を創るのは「学び続ける意志」。共に展望を考えましょう。

現在は本学で専任教員として働きながら研究を続けています。AIや情報学が必須となる現代において、未来を創る若者たちが自信を持って生きていけるよう、過去を尊重し、現在を示し、未来の展望を考える授業を展開することに努めています。

リカレント教育は、変化の激しい社会で私たちが成長し続けるための大切な鍵です。仕事と学業の両立は簡単ではありませんが、「継続する意志」を持ち続けることで、やがて必ず「学びが実る」時が来ます。大学院では知識の修得に留まらず、論理的思考や高度な研究方法論の真髄に触れ、研究者としての揺るぎない基盤を築くことができます。ぜひ本学で、学び続けるという新たな挑戦に踏み出してみてください。

外国語指導助手にまつわる
課題とその解決法を見出すことで
教育の質の向上を図りたい



在 学 生

山岡 祐之

経営学研究科 経営学専攻

研究テーマ

日本のALT制度における
国際人材マネジメントの課題と
最適化に関する研究



——帝京平成大学大学院を選んだ理由を教えてください。

社会課題の背景を深く掘り下げ、理論と実践の両面から学ぶためです。

学部では経営学を学びましたが、特に卒業論文やケーススタディを通じて、社会問題の表面的な理解にとどまらず、その背景や要因を深く掘り下げて考える面白さを感じ、さらに知識や分析能力を高めたいと考えるようになりました。

帝京平成大学大学院を選んだ理由は、少人数で指導を受けられる環境が整っており、教員との距離が近い中でじっくり研究に取り組める点に魅力を感じたからです。また、実務に関連した視点を重視するカリキュラムにも惹かれ、ここでなら理論と実践の両面から学びを深められると考えました。

——現在取り組んでいる研究について教えてください。

ALT制度の課題を分析し、教育の質向上に繋がる運用の提案を目指します。

私の研究は、主にALT（外国語指導助手）の採用・配置・運用といったプロセスに着目し、日本の教育現場で生じている課題を明らかにすることを目的としています。具体的には、ALTの質に関する問題や、契約形態・採用プロセスの不透明さ、現場ごとの運用の違いなどに注目して分析を行っています。これらの課題に対して効果的なマネジメントのあり方を検討し、採用された人材を適切に運用できる環境づくりや、教育の質向上に繋がる仕組みを提案していきたいと考えています。

指導体制は少人数で教員との距離が近く、自分の研究テーマについて気軽に相談できるため、方向性をしっかり固めながら進めることができます。また、授業も一方通行ではなく、文献の読み込みや発表、ディスカッションを通して考えを深めていく機会が多い点も大きなメリットです。当面の目標は修士論文を書き上げることですが、そのための一連のプロセスを丁寧に指導してもらえる点も魅力と感じています。

——帝京平成大学大学院を目指す人へのメッセージをお願いします。

「なぜ知りたいか」という興味を大切に、自分のペースで成長を。

大学院への進学を考えている皆さんにお伝えしたいのは、「自分の興味や関心を大切にしてほしい」ということです。大学院では、自分でテーマを設定して研究を進めていく場面が多くなります。そのため、「なぜそれを知りたいのか」「何を明らかにしたいのか」という根本的な問いをしっかりと自分の中で考えておくことが非常に重要です。

最初は研究に対する不安を感じることもあるかもしれませんが、本学では自分のペースでじっくりと学問に向き合うことができます。自らの興味を深く追求していく経験は、必ず皆さんにとって大きな成長に繋がるはずです。

高度な解析設備を駆使して
前十字靱帯損傷からの競技復帰を
助ける方法を研究しています



在学生

星野 里子

健康科学研究科 理学療法学専攻

研究テーマ

距離別片脚前方ホップの
着地動作指導が前十字靱帯損傷
リスクに与える影響



——帝京平成大学大学院を選んだ理由を教えてください。

臨床で感じた疑問を研究に結びつける力を養うためです。

私自身がバスケットボールの選手だった経験から特にスポーツ分野に強い関心があり、学部でもスポーツ傷害の評価や予防、競技復帰に向けた理学療法について、授業や実習を通して数多く学んできました。しかし、学部3年次の臨床実習を通じて、この分野で活躍するにはより専門的な知識と技術が不可欠であると実感しました。特に深めたかったのは、自らも選手として経験した前十字靱帯損傷と再損傷についての知識、とりわけ再損傷の予防に関する知識です。現在、理学療法士として整形外科クリニックで働いていますが、その現場で得た疑問を研究へと繋げる「臨床研究」の手法を本格的に学びたいと考えています。

帝京平成大学大学院を選んだ理由は、卒業研究でも使用したVICON（三次元動作分析システム）による動作解析設備が整っていることです。学部時代からお世話になっている先生のもとで学びを深めたいという強い思いもありました。

——現在取り組んでいる研究について教えてください。

前十字靱帯再建術後のより安全な競技復帰の手法を探索しています。

現在は、前十字靱帯再建術後の安全な競技復帰に向けた基礎的知見を得るため、健康者を対象に、跳躍距離の異なる片脚前方ホップを三次元動作解析し、動作指導によってどのような変化が生じるかを検討しています。

本学のメリットは、VICONなどの高度な動作解析設備が利用できたり、図書館や電子文献へのアクセスが良く必要な論文を容易に探し出せるなど、学修環境が整っていることです。働きながら学ぶことへの先生方のご理解と手厚いご指導のおかげで、大学院での研究と勤務を無理なく両立できています。

今後の目標は、前十字靱帯再建術後の再損傷リスクを減らし、より安全な競技復帰に繋がる評価・指導方法を確立してスポーツ現場や臨床現場に還元することです。前十字靱帯再建術後の競技復帰基準には、いまだ明らかになっていない点も多く存在します。研究を通じてそれらの課題を解明し、より安全で根拠に基づいた復帰基準の確立に貢献していきたいと考えています。

——帝京平成大学大学院を目指す人へのメッセージをお願いします。

充実した環境を活かし、自ら課題を見つけて解決する力を育んでください。

本学の大学院は少人数制である分、自分の研究にしっかりと向き合いながら、自主的に学びを深めることができます。研究を進める過程で、自ら深く考え、課題を見つけ出して解決していく力が身につくことは、ここで学ぶ大きな魅力の一つだと思います。主体的に学びたい方、自分の興味のある分野をより深く追究したいと考える方には、ぜひ本学の大学院での学びに挑戦してほしいと思います。

学際的カリキュラムで
幅広い視点を養いつつ探究心を高め、
新時代の看護教育を究める



修了生

三枝 祐子

看護学研究科 看護学専攻

研究テーマ

新しい時代に即した
基礎看護学教育の
教育手法の開発



——帝京平成大学大学院を選んだ理由を教えてください。

本学で教員を経験し、教育の奥深さに魅了されたためです。

看護師としての経験を経た後、本学で教員として勤務したことが、大学院への進学を志すきっかけとなりました。

当時、看護学研究科長の吉澤千登勢先生のもとで働く機会に恵まれ、「教育力によって学生の学びを最大限に引き出す教育実践」を間近で体験することができました。この経験により、看護における教育の奥深さに魅了され、さらに深く学びたいと考えるようになりました。

学際的なカリキュラムも、本学を選んだ理由の一つです。看護学だけでなく、医学、薬学、理学療法、作業療法、鍼灸、精神保健、公認心理師など、多岐にわたる分野の先生方からご教授いただける機会があり、より幅広い視点から看護について深く考えることができる環境が魅力的でした。

——現在取り組んでいる研究について教えてください。

生成AIの普及も視野に、新時代の看護教育を探究しています。

現代の社会生活においては、生成AIの浸透が進むなど、時代が大きく変化しています。こうした状況もしっかりと視野に入れつつ、これからの時代に求められる看護教育のあり方について考えるのが私の研究テーマです。

本学には、こうした新しい分野の研究をするにあたっても有利な条件がそろっていると感じています。例えば、最新の学術情報にオンラインでアクセスできる環境が整っていることもその一つです。

将来は、学んだことを教育実践に繋げ、若い世代の看護師に質の高い教育を提供できる存在になりたいと願っています。また、自らも研究を通じて探求力を磨き、生涯学び続ける精神力を培っていきたいと考えています。

——帝京平成大学大学院を目指す人へのメッセージをお願いします。

働く人にも優しい学修環境で、共にスキルアップを目指しましょう。

大学院での学びは「自律・自立」して学問と対峙しなければ学位取得には至らない厳しい面もありますが、私のように働きながら学んでいる学生にとって、大学によるサポートはありがたいです。先生方や事務職員の方々による手厚いサポート体制が整っていて、困ったときにいつでも相談できる場所が用意されていることが心強さに繋がっています。中野駅から徒歩9分というアクセスの良さや、充実した学修環境にも助けられ、仕事を持つ学生や、遠方から通学している学生も多く在籍しています。

これから進学を考えている皆さんも、この恵まれた環境で、私たちと一緒に看護教育者・研究者・実践者としてのスキルアップを目指してみませんか。

大学院組織



授業時間

時間割

時限	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限	6 時限	7 時限
時間	9:00 └ 10:30	10:40 └ 12:10	13:00 └ 14:30	14:40 └ 16:10	16:20 └ 17:50	18:00 └ 19:30	19:40 └ 21:10

※2027年度名称変更予定

課程修了の認定及び学位

研究科	専攻	分野	課程	在学期間	修得単位及び条件	学位
薬学研究科	薬学専攻	—	博士	4年以上8年以下	●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	博士 (薬学)
情報科学研究科	情報科学専攻	社会情報学分野 健康情報学分野	修士	2年以上4年以下	●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	修士 (情報学)
		—	博士	3年以上6年以下	●16単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	博士 (情報学)
経営学研究科	経営学専攻	—	修士	2年以上4年以下	●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	修士 (経営学)
健康科学研究科	鍼灸学専攻 柔道整復学専攻 健康栄養学専攻 言語聴覚学専攻 作業療法学専攻 理学療法学専攻 救急医療学専攻※	—	修士	2年以上4年以下	●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	修士 (健康科学)
	臨床心理学専攻	—	博士	3年以上6年以下	●16単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	博士 (健康科学)
	健康科学専攻	鍼灸学分野 柔道整復学分野 健康栄養学分野 言語聴覚学分野 作業療法学分野 理学療法学分野 救急医療学分野※	博士	3年以上6年以下	●16単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	
臨床心理学研究科	臨床心理学専攻	—	専門職学位	2年以上4年以下	●50単位以上	臨床心理修士 (専門職)
看護学研究科	看護学専攻	—	修士	2年以上4年以下	●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	修士 (看護学)
		—	博士	3年以上6年以下	●16単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	博士 (看護学)
情報科学研究科 (通信制)	情報科学専攻	社会情報学分野 健康情報学分野	修士	2年以上4年以下	●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	修士 (情報学)

※2027年度名称変更予定



社会人学生を対象とした修学支援制度

■ 専門実践教育訓練給付金 厚生労働大臣指定講座

本学臨床心理学研究科 臨床心理学専攻（専門職大学院）は、社会人ならびに社会人経験者の皆さまのキャリアアップを支援するため、「専門実践教育訓練給付制度」の対象講座として指定を受けております。（2021年4月入学生より適用。2029年9月末まで有効）。

本制度は一定の条件を満たす、雇用保険の被保険者※（在職者）または被保険者であった方（離職者）が、支払った経費の一部を、公共職業安定所から給付金を支給されることが可能になる制度です。この制度を利用することで、本学臨床心理学専攻の2年間に必要な総負担経費の約5割にあたる、最大128万円が支給されます。詳細は、厚生労働省のHPをご覧ください。

※被保険者とは、一般被保険者及び高年齢被保険者をいいます。

項目	内容
受講中の給付金※1	教育訓練経費の50%（年間上限40万円）
修了後の給付金※2	教育訓練経費の20%（年間上限16万円）
追加給付金※3	教育訓練経費の10%（年間上限8万円）
最大給付額	教育訓練経費の最大80% （訓練期間2年制の講座の場合は上限128万円）

※1 一定期間、雇用保険の被保険者または被保険者であった受講者が、自ら費用を負担して厚生労働大臣が指定する教育訓練講座を受講し修了した場合

※2 課程を修了し、その訓練に係る資格を取得し、かつ、受講修了日の翌日から起算して1年以内に被保険者として雇用された場合または既に雇用されている場合

※3 訓練修了後の賃金が受講開始前の賃金と比較して5%上昇した場合

指定研究科・専攻

研究科	専攻	課程	指定期間
臨床心理学研究科	臨床心理学専攻	専門職学位課程	2026年10月1日～2029年9月30日

■ 「一般教育訓練給付制度」厚生労働大臣指定講座

一般教育訓練に関する教育訓練給付制度とは、働く人の主体的な能力開発の取り組みを支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とする雇用保険の給付制度です。

一定の条件を満たす雇用保険の被保険者（在職者）または被保険者であった方（離職者）が、厚生労働大臣の指定する一般教育訓練講座を受講し、修了した場合、教育訓練施設に支払った教育訓練経費の一定の割合に相当する額が、公共職業安定所から支給されます（受講費用の20%、上限10万円）。

本学では、「一般教育訓練給付制度」の対象として、以下の15課程が指定を受けています。

指定研究科・専攻一覧

研究科	専攻	課程	指定期間
情報科学研究科	情報科学専攻	修士課程	2025年10月1日～2028年9月30日
	情報科学専攻	修士課程【通信制】	2026年4月1日～2029年3月31日
	情報科学専攻	博士課程	2025年4月1日～2028年3月31日
経営学研究科	経営学専攻	修士課程	2026年4月1日～2029年3月31日
看護学研究科	看護学専攻	修士課程	2024年4月1日～2027年3月31日
	看護学専攻	博士課程	2024年4月1日～2027年3月31日
健康科学研究科	鍼灸学専攻	修士課程	2024年4月1日～2027年3月31日
	柔道整復学専攻	修士課程	2024年10月1日～2027年9月30日
	健康栄養学専攻	修士課程	2024年10月1日～2027年9月30日
	言語聴覚学専攻	修士課程	2025年10月1日～2028年9月30日
	作業療法学専攻	修士課程	2024年10月1日～2027年9月30日
	理学療法学専攻	修士課程	2025年4月1日～2028年3月31日
	救急医療学専攻※	修士課程	2025年10月1日～2028年9月30日
	健康科学専攻	博士課程	2025年4月1日～2028年3月31日
	臨床心理学専攻	博士課程	2026年4月1日～2029年3月31日

一般教育訓練給付制度の概要や対象者、申請方法につきましては厚生労働省 教育訓練給付制度よりご確認ください。

※2027年度名称変更予定



薬学専攻 (博士課程)

薬学研究科

Graduate School of Pharmaceutical Sciences /
Doctoral Program in Pharmaceutical Sciences

わが国の社会・医療・創薬を結ぶ、 くすりの専門家を養成します

本研究科では、わが国の医療を支える専門性の高い薬剤師の養成を目指し、「医療実践」「創薬・橋渡し」「医薬評価・規制」の3研究分野を設けて研究を行います。「医療実践」研究分野では、これからの地域連携医療を牽引する薬剤師として「在宅・地域医療のスペシャリスト」の養成を目指していますが、特に、フィジカル・アセスメントなど科学的エビデンスに基づいて薬物治療や評価を行える能力、ほかの医療スタッフとコミュニケーションできる能力を重視いたします。「創薬・橋渡し」研究分野においては、優れた医薬品を探索・開発し、それらを社会へ提供するための研究を実施します。具体的には、様々な疾患に関係する創薬ターゲットや、抗体薬などの分子標的薬に関する基礎・実用化研究を行い、加えて「医薬評価・規制」研究分野のコース・ワークを組み合わせることによって、医療の現場や医薬品開発マネジメントなど、他分野での研究にも従事できるpharmacist-scientistを養成する計画です。「医薬評価・規制」研究分野では、「医薬品開発と規制の調和」や「医療と経済の調和」に関する研究を通して、薬と社会・私たちの生活との調和について見識を備えた指導者を養成いたします。

このように本研究科で研究を積むことによって、現役の薬剤師など社会人の方々も、時代の要請に応えられるキャリア・アップを実現していただきたいと願っております。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
薬学研究科	薬学専攻	4年以上8年以下	● 30単位以上 ● 学位論文の審査及び試験に合格した者	博士（薬学）

Message

社会と医療の動きに即応する 実践的な専門教育と研究

これからの薬剤師には、薬学的知見を活かし、より高度な薬学的管理を実践することが求められます。科学技術の進歩や人々の価値観の変化により、薬学・薬剤師に社会が期待することは変わっていきます。本研究科は、このような社会や医療の動きをいち早く捉えて、医療提供体制を支え牽引する人材の養成を目指しています。6年制薬学教育で培った能力をさらに高めたい方、薬剤師としてのキャリアアップを目指し専門性を身につけたい方が、医療実践分野、創薬・橋渡し分野、医薬評価・規制分野の研究を通じて、その目標を達成できるようにサポートします。



薬学研究科長
亀井 美和子
Kamei Miwako

特色

地域医療を担う「在宅・地域医療の スペシャリスト」を養成します

地域包括ケアシステムにおいて、薬剤師は薬学的知見を有する専門職として、多職種・多施設と連携しながら、地域住民の健康サポートや在宅医療における薬物療法を担います。

本研究科の医療実践分野では、科学的エビデンスに基づく薬物療法、フィジカル・アセスメント、多職種連携の実践能力を身につけた「在宅・地域医療のスペシャリスト」の養成を目指しています。

創薬や医療現場での実績を活かし、 実践的な課題解決能力を養成します

本研究科には、研究所や製薬企業において画期的な創薬の実績を有する教員、病院や薬局で専門領域の研究実績を有する薬剤師など、優れた研究能力と実務経験を備えたスペシャリストが揃っています。経験と実績を活かし、専門分野における実践的な問題解決能力を養成しています。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

薬学研究科 薬学専攻（博士課程）

薬学研究科 薬学専攻は、その教育・研究目的を達成するために、本学の建学の精神、「実学の精神」に則り、「医療実践、革新的創薬、医薬評価・規制」の分野における教育・研究を実施するため、以下の入学者を求める。

- 1 薬学の専門知識を基に医療に貢献する意欲を有している。
- 2 医療における課題に関心を持ち、自らの研究を通じて課題解決を図る意欲と能力を有している。
- 3 他者と協力・連携しながら教育・研究に取り組む行動力と、高い倫理観を有している。



情報科学専攻／

社会情報学分野・健康情報学分野（修士課程）

情報科学専攻（博士課程）

情報科学研究科

Graduate School of Information Sciences /
Master's Program in Information Sciences /
Doctoral Program in Information Sciences

情報科学によって健康増進と 生活環境の向上に貢献できる 人材を養成します

わが国は、戦後、高度経済成長を経て、生活水準の向上を実現しました。しかし、近年、少子高齢化をはじめ、環境、都市・地方などに解決すべき社会問題を抱えています。一方、コンピュータテクノロジーの発展は社会構造に変革をもたらしました。さらに、情報技術・情報科学は、我々が抱えている諸問題を解決するためのツールとしても期待されています。本研究科は、情報科学の視点から学際的な分野を統合できる学識を深め、健康増進や生活環境の向上に貢献できる人材を養成します。

本研究科は、データサイエンス、理学、工学、人文社会学、理学療法、柔道整復学、薬学等の学際的領域の研究者から構成されています。修士課程には、社会情報学分野と健康情報学分野が設置されており、データサイエンスを基盤として環境、都市・地方などの社会問題および健康問題を研究します。

修士課程では幅広い科目が設置されており異分野を学修するとともに、複数の教員から研究指導を受けて学際的に問題を追究することができる教育を行います。博士課程には分野は設置されていませんが、修士課程と同様の体制で教育・研究を行っています。

研究科	専攻	分野	在学期間	修得単位及び条件	学位
情報科学研究科	情報科学専攻	社会情報学分野 健康情報学分野	2年以上 4年以下	●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	修士 (情報学)
		—	3年以上 6年以下	●16単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	博士 (情報学)

Message

社会と医療の動きに 情報科学を結びつける専門教育と研究

科学技術の発展とともに情報技術が飛躍的に発展しました。自然環境の変化、生活環境の複雑化など、人間が生きていくための環境も大きく変化してきています。大規模データベースの構築と解析により、自然環境や生活環境の改善に資する多くの情報がもたらされるようになりました。人が健康を維持し、豊かで充実した生活を送るためにも、あふれる情報からの確に必要な情報を選択し、人間と自然環境・生活環境が共生した持続可能な社会を構築しなければなりません。情報科学の知識と技術を修得し、人類の幸福と福祉に貢献するための熱意を持ち、探究心と実行力のある方々の入学を期待しております。



情報科学研究科長
矢ノ下 良平
Yanoshita Ryohei

特色

情報技術の革新に対応し、 社会的課題を解決する研究

■ 社会情報学分野

情報工学技術の基礎から応用に至る幅広い教育と研究を行っています。例えば、情報工学技術の分野では画像認識や情報の表現法に関する研究、応用的分野では防災を目的とした環境問題や都市計画による生活環境の改善に関する研究を行っています。個々の専門分野の知識・技術を深めることにより、専門を超えた幅広い分野にも対応できる人材の養成を目指します。

医療と福祉の理解を 深める研究が可能です

■ 健康情報学分野

理学療法、作業療法、言語聴覚、臨床心理、鍼灸、柔道整復など幅広い医療関連分野において、情報技術分野との融合を図りながら、情報科学の視点から学際的研究を行っています。個人の健康増進のみならず、公衆衛生の視点から健康と福祉の質の向上に取り組む人材の養成を目指します。

副専攻履修

情報科学研究科（修士課程）では、2022年度より副専攻履修を開始いたしました。

主専攻を学びながら、他専攻の指定された科目を受講することで、主専攻の補強や、より広い分野での学びに繋げていくことができます。

※通信制大学院・博士課程には副専攻履修制度はありません。



情報科学研究科 情報科学専攻（修士課程・博士課程）では、
「一般教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細は『社会人学生を対象とした修学支援制度』
のページをご参照ください。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

情報科学研究科

情報科学研究科は、情報学や情報工学等を含めた多様な学術領域の高度な専門知識と技術・情報を適用して、人間の健康や社会生活に影響を及ぼす自然と生活環境の要因を的確に分析、評価、予測を行うことにより、新しい社会環境と生活環境を構築できる人材の養成のため、以下の入学者を求める。

- 1 現代社会の課題に強い関心をもっている。
- 2 健康と社会全般にわたる多角的・学際的視野と、各専門分野における高度な専門的実践能力を身につけた指導者・研究者として、問題解決に意欲的に取り組み、高度情報化社会の発展に貢献したいという強い意欲と能力をもっている。
- 3 高度情報化社会において、人間の健康および幸福と福祉に貢献する意志をもっている。

情報科学専攻（修士課程）

情報科学研究科 情報科学専攻（修士課程）は、人間の健康や社会生活に影響を及ぼす自然と生活環境の要因を対象に、情報学・情報工学を含めた多様な学術領域の知識や技術を用いて、的確に分析、評価、予測することにより、人間が健全でより良い生活を送ることができる社会環境と生活環境を構築できる人材の養成のため、以下の入学者を求める。

- 1 現代社会の課題を積極的に見つけ、解決したいという強い意志をもっている。
- 2 健康と社会全般にわたる多角的・学際的視野と、各専門分野における高度な専門的実践能力を身につけた指導者として、高度情報化社会の発展に貢献したいという強い意欲をもっている。
- 3 高度情報化社会において、人間の健康および幸福と福祉に貢献する意志をもっている。

情報科学専攻（博士課程）

情報科学研究科 情報科学専攻（博士課程）は、人間の健康や社会生活に影響を及ぼす自然と生活環境の要因を対象に、情報学・情報工学を含めた多様な学術領域の知識や技術を応用し、的確に分析、評価、予測することにより、人間が健全でより良い生活を送ることができる社会環境と生活環境を構築できる人材の養成のため、以下の入学者を求める。

- 1 現代社会の課題に強い関心をもち、自らの関連領域において問題を提起することができる。
- 2 健康と社会全般にわたる多角的・学際的視野と、各専門分野における基礎的な知識と技能をもち、さらに高度な専門的実践能力を身につけた指導者として、問題解決に意欲的に取り組み、高度情報化社会の発展に貢献したいという強い意欲と能力をもっている。
- 3 人間と社会の物質的および精神的な包括的視点から、新しい考え方や手法の開発・確立、実践に精力的に取り組む意欲をもっている。
- 4 高度情報化社会において、人間の健康および幸福と福祉に貢献する志をもっている。



経営学専攻 (修士課程)

経営学研究科

Graduate School of Business Administration /
Master's Program in Business Administration

マーケティング力と課題解決能力を
養うことで、国際的な視点を持ち、
多様な社会課題に対応できる
人材を育成します

近年、技術革新やDX化、グローバル化により新たなビジネスモデルが創出される一方で、現代社会が抱える問題は複雑多様化しています。本研究科では、このような新たなビジネスや課題に対して、経営学分野の高度な知識及び実践的スキルと、ビジネス環境に対応できる高度な課題解決能力を持つ人材の養成を通じて、社会全体の問題解決に寄与することを理念とします。

その理念に基づき「マーケティング力」「最新の技術動向を理解し、実際のビジネスに応用する力」「異なる文化や国際ビジネス環境の理解」「企業倫理や持続可能な経営に関する理論と実践力」を養うための教育プログラムを提供します。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
経営学研究科	経営学専攻	2年以上4年以下	● 30単位以上 ● 学位論文の審査及び試験に合格した者	修士（経営学）

Message

ビジネスの変革と社会課題を 戦略的マーケティングと倫理観で結びつける 実践教育と研究

次代のビジネスリーダーを目指すあなたに向けて、帝京平成大学経営学研究科（修士課程）は、2026年4月に中野キャンパスに新設されました。本研究科の最大の強みは、マーケティング力と課題解決能力を実践的に養う体系的カリキュラムにあります。経営戦略、企業倫理、デジタルマーケティングまで、現代ビジネスに不可欠な知識を修得し、銀行・総合商社などでの豊富な実務経験を持つ教員陣から、生きた経営学分野を広く学べます。さらに、国際的な視点と持続可能な経営の実践力を身につけ、複雑化する社会課題に立ち向かう高度専門職として成長できる環境を提供します。2年間で修士（経営学）を取得し、企業・研究・起業、あらゆるフィールドで活躍する未来を、私たちと共に切り拓きましょう。



経営学研究科長

大崎 慎一

Osaki Shinichi

特色

ビジネスの実務に通用する高度な専門知識と 実践的スキルを養成します

経営戦略、マーケティング、企業倫理といった経営学の基盤となる知識を修得し、国際的なビジネス環境を理解するための共通基礎科目に始まり、ビジネスの実務において活躍できる実践的スキルやアントレプレナーシップを身につけるための専門科目に至る体系的なカリキュラムを用意しており、国際的な視点を持ち、現代社会の要請に対応するための専門性と実践的な能力を備えた人材を養成します。

実務経験豊富な教員が 専門分野の研究をサポートします

本研究科には、経営倫理、組織論、アントレプレナーシップ、金融ファイナンス、人的資源管理、企業倫理、経営法務などを専門領域とする教員が在籍しています。また、ビジネスの現場や、銀行、総合商社などの実務経験を有する教員も揃っており、実務事例を通じた高度な経営学の専門知識や意思決定の実践方法を学ぶことで、自らが専門とする分野の研究を深めることができます。

経営学研究科経営学専攻（修士課程）では、
「一般教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細は『社会人学生を対象とした修学支援制度』
のページをご参照ください。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

経営学研究科 経営学専攻

経営学研究科 経営学専攻（修士課程）は、学士課程教育による一般的及び専門的学識を備えた者が、次代の経済社会の発展の担い手たるに相応の豊かな教養と高度専門的な経営学的知識を修得することを目的としており、変革の時代において国際的な視点と現代社会の要請に対応するための専門性と実践的な能力を備えた高度専門職、教育指導者、研究者を養成するため、以下の入学者を求める。

- 1 多角化・国際化する社会に貢献し、持続可能な発展に向けて積極的な役割を果たしたいという意欲を持っている。
- 2 経営学分野全般にわたる多角的・学際的視野と、各専門分野における高度な専門的実践能力を備え、実践的なビジネススキルを発展させる意欲を持っている。
- 3 現代社会の諸課題を積極的に見つけ、解決したいという強い意志をもっている。



健康科学研究科

Graduate School of Health Sciences

保健、医療、福祉、介護を支える 医療専門職の教育者と 指導者を養成します

少子高齢化が進行するわが国では、高齢者のQOL（生活の質）向上や健康寿命の延伸などの課題に取り組む必要があり、保健、医療、福祉、介護分野で社会を支える医療専門職への需要や期待が高まっています。本学の学部教育では多くの医療専門職を養成していますが、今後ますます必要になる各分野の指導的人材を養成する目的で本大学院を設置しています。

本研究科の修士課程は7専攻（鍼灸学専攻、柔道整復学専攻、健康栄養学専攻、言語聴覚学専攻、作業療法学専攻、理学療法学専攻、救急医療学専攻※）で構成され、各専攻は該当する専門職の国家資格に対応しています。学部卒業後すぐ本大学院に進学する場合でも、専門職の実務を何年か経験後に進学する場合でも、専門分野の連続性を保ちやすい利点があります。

また、本研究科の健康科学専攻（博士課程）の中に修士課程の7専攻に対応した7つの分野が設置されていますので、修士課程から博士課程へと続く専門分野の連続性も保たれます。本研究科の教育目標は、高度専門職業人および各専門分野の教育者や指導者、さらには研究者の養成です。入学者がどの領域を専攻するにしても、専門分野における知識や実践能力を高め、論理的思考力と研究的な視点を養い、職業倫理と研究倫理、そして生涯学習の習慣を身につけてほしいと願っています。

研究科	専攻	分野	在学期間	修得単位及び条件	学位
健康科学研究科	鍼灸学専攻、柔道整復学専攻、健康栄養学専攻、言語聴覚学専攻、作業療法学専攻、理学療法学専攻、救急医療学専攻※	—	2年以上 4年以下	●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	修士 (健康科学)
	臨床心理学専攻	—	3年以上 6年以下	●16単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	博士 (健康科学)
	健康科学専攻	鍼灸学分野、柔道整復学分野、健康栄養学分野、言語聴覚学分野、作業療法学分野、理学療法学分野、救急医療学分野※	3年以上 6年以下	●16単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	

Message

多職種連携的实践教育から 学際的研究へ

医療の場ではチーム医療の重要性は常識になっています。近年では、医療施設内でのチーム医療の枠を越えて、在宅医療、障がい者や高齢者のケア、要介護予備軍への対応、さらには地域住民全体の健康の維持・増進など、行政を含めた関連他職種との連携が必要な状況が増えています。そして教育の場では、多職種連携教育という用語がキーワードになっています。多様な医療職種の院生が共に学ぶ健康科学研究科は、各専門分野の医療技術者としての卓越を目指すだけでなく、他職種の理解を深め、連携力やリーダーシップを身につけ、健康科学の広い視野に立って学際的領域の研究にも興味を持つなど、臨床や教育・研究の場で活躍し、発展する素地を作る良い機会を提供できると思います。本研究科を修了した優れた人材が、それぞれの分野で活躍することを期待しています。



健康科学研究科長

和泉 孝志

Izumi Takashi

入学受入れの方針（アドミッションポリシー）

健康科学研究科

健康科学研究科は修士課程7専攻と博士課程2専攻で構成されている。教育目的は、健康科学及び臨床心理学の分野における高度専門職業人や各専門分野の教育・指導者、および研究者の養成である。この教育目的を達成するために、以下の入学者を求める。

- 1 保健、医療、福祉、介護の各分野における高度専門職業人として、社会を支え貢献したいという強い意欲を有している。
- 2 保健、医療、福祉、介護の各分野、および関連する学際的分野の諸課題に興味を持ち、研究を行う意欲と能力を有している。
- 3 各専攻や分野が求めている入学要件を満たしている。

副専攻履修

健康科学研究科（修士課程）では、2022年度より副専攻履修を開始した。

主専攻を学びながら、他専攻の指定された科目を受講することで、主専攻の補強や、より広い分野での学びに繋げていくことができる。

※博士課程には副専攻履修制度はありません。





健康科学研究科 鍼灸学専攻

(修士課程)

Graduate School of Health Sciences /
Master's Program in Acupuncture and Moxibustion

臨床現場を提供し、 学術活動や鍼灸学への 造詣を深めることができます

国家資格を取得し、はり師・きゅう師として社会に出て医療従事者としてはまだまだ駆け出しです。そこから一人前になるには何段階ものステップを踏む必要があります。また、学士課程や専門士課程での学業は鍼灸医学の基礎を学んで、はり師・きゅう師の国家試験に備える側面が強く、他人の研究成果を見聞して理解したり、自分のそれを発信したりする学術的な修練は不完全なまま終わっていると思われます。これらのニーズに対応するために鍼灸学専攻が設置されました。

本専攻は鍼灸学における第一線の研究成果を上げることを目標としています。そのために、まず「臨床鍼灸学特論I」「臨床鍼灸学特論II」「統合医療学特論I」「統合医療学特論II」「中医学特論」などの授業で学んだ鍼灸医学に関連する基礎知識を復習しつつ、さらに発展的な専門知識を身につけていきます。臨床実習では、帝京池袋鍼灸院・鍼灸臨床センターなどの臨床現場で実際に鍼灸治療を修練し、臨床家としてより高度なレベルを目指します。これらの経験を通じて鍼灸医学の抱えている問題点を自覚し、自分の研究テーマとすることも可能です。さらに、本専攻では国外での鍼灸事情に精通している教員から世界的な視野で鍼灸医学を学び、国際舞台で活躍できる素養を身につけることができます。

以上のように、本専攻では研究者としても臨床家としても独り立ちできるような実力を身につけるために必要な内容を学ぶ機会が与えられます。単に学位を取得するだけではなく、社会に出て力強く羽ばたいていきたいと考える方に最適と自負しております。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
健康科学研究科	鍼灸学専攻	2年以上4年以下	● 30単位以上 ● 学位論文の審査及び試験に合格した者	修士(健康科学)

はり師及びきゅう師養成施設における教員の資格が得られます

本専攻の修士課程を修了した場合、はり師・きゅう師養成施設における専門基礎分野及び専門分野に関する科目を教授するための教員資格が得られます。ただし、教授できる授業科目は、原則として専攻した分野に関連する領域となります。

Message

科学的な見識と 技法を修得した将来の指導者を養成

本専攻では、基礎及び臨床研究を通して、鍼灸学における専門的な学識を深めます。ストレス社会と言われる近年、西洋医学のみでは対応が十分とは言えない疾患や症状が増え、様々な医療職種が連携した統合医療の必要性が求められています。特に、鍼灸治療は慢性疼痛やストレス症状の緩和、免疫機能の増大などに効果があり、統合医療の一翼として用いられています。今後、さらに現代社会における鍼灸治療の利用を広げることで、多くの人々の苦痛軽減に貢献できるはずです。そのためには、鍼灸の効果や機序を様々な視点から学際的に捉えることがより求められます。本学の実学の精神のもと、鍼灸学における科学的な見識・技法を修得し、研究と臨床の両面に優れた将来の指導者を養成します。



鍼灸学専攻長
宮崎 彰吾
Miyazaki Shogo

特色

東洋医学研究所を中心とする研究施設で、 鍼灸学の学問的造詣を深めます

本専攻には、鍼灸学やそのほかの東洋医学・伝統医学のスペシャリストがそろっております。主な研究施設である東洋医学研究所では、現在も共同研究をはじめ何件もの研究が彼らを中心に行われており、学会発表や論文発表も積極的に行っています。本専攻の学生も当研究所をベースに研究活動を行うことになり、場合によっては関連他施設の研究に関わる可能性もあります。学問的な物の考え方、研究の組み立て、文献検索、論文の作成など研究者としての基礎を学びます。

関連臨床施設で鍼灸の臨床に関する 知識、技能を深めます

本専攻では、池袋キャンパス敷地内に帝京池袋鍼灸院・鍼灸臨床センターを附属臨床施設として使用しております。また池袋キャンパス敷地内には、このほかにも帝京池袋接骨院や帝京平成大学臨床心理センターなどが併設されています。

これらを通じて鍼灸の技術だけではなく、わが国の医療における鍼灸の果たす役割等も意識することができ、臨床面においても一段上のレベルを目指すことが可能です。

健康科学研究科 鍼灸学専攻（修士課程）では、
「一般教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細は『社会人学生を対象とした修学支援制度』のページをご参照ください。

入学受入れの方針（アドミッションポリシー）

健康科学研究科 鍼灸学専攻（修士課程）

健康科学研究科 鍼灸学専攻（修士課程）は、鍼灸医学の指導者として、この分野の学問体系を構築する高度専門職業人、教育・研究者を養成する。この教育目的を達成するため、以下の入学者を求める。

- 1 鍼灸医学の分野における高度専門職業人として、社会を支え貢献したいという強い意欲を有している。
- 2 研究に必要な基礎的能力を備えていて、諸課題に立ち向かう研究意欲を抱いている。
- 3 主体的に研究を進める行動力と同時に、他者との協調性や指導を受け入れる柔軟性を有している。
- 4 研究を行う過程で困難に打ち勝つ姿勢や、目的を達成しようとする強い意志を有している。



健康科学研究科

柔道整復学専攻

(修士課程)

Graduate School of Health Sciences /
Master's Program in Judo Physical Therapy日本初の修士課程で学び、
臨床・研究・教育の現場で
応用・実践できる人材を育成します

日本で最初の「柔道整復学」の大学院修士課程として発足した本専攻は、柔道整復術という伝統的な臨床技術を基盤に、その治療効果や意義を科学的に検証し、臨床現場に還元できる人材の育成を目的としています。経験に基づく施術を学術的に検討し、医療・健康科学分野における柔道整復学の発展に貢献することを目指しています。

柔道整復学は日本独自に発展してきた医療分野であり、治療の科学的根拠やメカニズムの解明には多くの課題が残されています。本専攻では、こうした課題に対し、臨床研究を通じたエビデンスの創出を重視し、柔道整復学をより確かな学問として確立することを目指しています。

教育・研究においては、柔道整復術に加え、西洋医学の基礎医学・臨床医学の知識や研究手法を取り入れ、EBM (Evidence-Based Medicine: 科学的根拠に基づく医療) を重視した学修を行います。機能解剖学的な視点を踏まえた検討や評価を通じて、臨床に直結する思考力と実践力を養います。

また、運動指導や運動療法、予防的運動処方などへの応用も視野に入れ、医療・健康増進の場で活躍できる能力を育成します。将来的には、統合医療の一翼を担う柔道整復学や、国際的な柔道セラピー (Judo Therapy) の展開も見据え、研究・教育の発展に取り組んでいます。

本専攻では、科学的思考力と主体的な学修姿勢を備えた臨床家、研究者、教育者としての第一歩を修士課程で築き、柔道整復学の未来を切り拓く意欲ある人材を求めています。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
健康科学研究科	柔道整復学専攻	2年以上4年以下	● 30単位以上 ● 学位論文の審査及び試験に合格した者	修士 (健康科学)

Message

科学的根拠に基づく 柔道整復学の専門教育と研究

現在、日本では柔道整復師による整骨院・接骨院が広く社会に根付き、地域医療を支える重要な役割を担っており、超高齢社会の進行とともに、その必要性はますます高まっています。一方で、治療効果の科学的根拠や医療との関係性について、社会からの関心と責任も強く求められています。

本学柔道整復学専攻では、柔道整復術という伝統的な臨床技術を基盤に、科学的根拠に基づく医療（EBM）を重視し、臨床と研究の両面から柔道整復学の発展に取り組んでいます。経験に基づく施術を客観的に評価し、得られた知見を臨床現場へ還元できる人材の育成を目指しています。



柔道整復学専攻長

展 広智

Ten Hiroto

特色

理論面と 実践・応用面とのバランス

高度専門職業人の養成には、理論的知識に基づき、それを実践・応用できる能力を体系的に身につける教育が求められています。本専攻では、その考え方にに基づき、理論を中心とした授業と、実践・応用に重点を置いた授業をバランスよく配置したカリキュラムを編成しています。

また、理論的理解が臨床現場での判断力や応用力に結びつくよう配慮しながら、授業を展開しています。

専門分野の深い知識と境界領域の 幅広い知識とのバランス

柔道整復学分野における専門的知識を深化させ、エビデンスに基づいた医療の実践を目指すことは重要です。一方で、専門分野のみに偏らず、健康科学の広い視野を養うことも高度専門職業人には不可欠です。

本専攻では、研究科共通の基礎科目と専攻専門科目との連携を重視し、基礎科目は1年次前期に配置して全員履修とすることで、専門性と学際性の両立を図っています。

健康科学研究科 柔道整復学専攻（修士課程）では、
「一般教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細は『社会人学生を対象とした修学支援制度』のページをご参照ください。

入学受入れの方針（アドミッションポリシー）

健康科学研究科 柔道整復学専攻（修士課程）

健康科学研究科 柔道整復学専攻（修士課程）では、柔道整復学分野の高度専門職業人、教育・指導者、研究者の養成を目的としている。建学の精神である「実学」「実践力」「創造力」そして「人間性」を基本とし、健康科学の研究と教育に高い関心を持つ、以下の入学者を求める。

- 1 柔道整復という伝統的臨床技術を
体系立った応用学問として確立しようとしている。
- 2 経験に基づく施術方法を科学的に検証して、得られた知見を
臨床現場の活動にフィードバックしたいと希望している。
- 3 柔道整復の治療手技に止まらず
健康科学の広い視野を持って学び、医療・保健分野の
専門職や教育・指導者、また研究者として
社会に貢献することを目標としている。



健康科学研究科

健康栄養学専攻

(修士課程)

Graduate School of Health Sciences /
Master's Program in Health and Dietetics“食・栄養・健康”に関する
スペシャリスト、リーダーおよび
教育者・研究者を養成します

本専攻の教育目標は、食・栄養・健康に関する高度な専門的知識を修得し、それらを応用して現状を分析、諸問題を抽出してその解決策を見いだし、さらに実践する能力を養うことにあります。これらを通して“食・栄養・健康”のスペシャリスト、管理栄養士のリーダー、教育者・研究者、食品関連業界の研究者などを養成することを目指しています。

近年、生活習慣病の増加、食の安全への不安、食文化の喪失など、食や栄養、健康に関する問題が深刻になっています。また、加速する高齢化社会において、いかに健康寿命を延ばすか、そのためのサルコペニア、フレイル対策なども喫緊の課題で、医食同源の重要性があらためて認識されています。これらの問題に対応するため、食育基本法の制定・実践や栄養教諭の普及など国を挙げての取り組みがなされています。また、医療現場では、あらゆる疾病治療において、栄養がその基礎となることの認識も深まっています。そして、多職種によるチーム医療の実践が求められ、Nutrition Support Team (NST) では管理栄養士が主導的な役割を果たすことが期待されています。さらに、一般社会での機能食品や栄養補助食品の普及は目覚ましく、機能性食品などを適切に利用するための栄養学的知識の普及も必要とされています。食の安全も重要な課題です。このように、栄養の専門家に対する社会のニーズは非常に高くなっています。本専攻はこのような社会のニーズに応える人材を養成します。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
健康科学研究科	健康栄養学専攻	2年以上4年以下	● 30単位以上 ● 学位論文の審査及び試験に合格した者	修士（健康科学）

Message

健康の基盤である栄養に関する 専門家、リーダーを養成

——問題を見いだし科学的に解決する能力を養います

本専攻では、健康であるために最も重要な基盤となる食や栄養に関する専門家の養成を目指しています。この過程においては、まず現在まで分かっているエビデンスを確認し、その上で何が問題かを見いだすこと、そしてそれを科学的にいかに関解決してゆくかの思考回路を形成することが最も大切です。このようなことは、専攻科学生が、将来、栄養学のいかなる領域においても、リーダー格となるために役立つものと考えられます。

指導教員は基礎栄養学、臨床栄養学、食品学をはじめとした様々な専門領域を有し、国際的にも活躍しておりますので、専攻科学生は自身の希望に応じて、関心のある領域を選び、研究することができます。教員は自らの実績を活かして、学生一人ひとりの研究テーマに即したきめ細かな指導を行いますので、着実に研究成果を上げることが期待できます。楽しく、かつ切磋琢磨して研究することをモットーにしています。また就職支援をはじめとして卒業後も継続的な支援を行います。



健康栄養学専攻長

福島 亮治

Fukushima Ryoji

特色

多職種からなり幅広い専門分野を持つ 教員による指導で多彩な研究に対応

食・栄養・健康の研究では、関連分野の専門家との協力が欠かせません。本専攻の教員は、臨床医師（消化器外科、小児外科）、管理栄養士、薬剤師、看護師の資格を有する者や、解剖学、生物科学、免疫学、脳神経学、農芸化学、水産学などを専門とする者で構成されており多彩です。またグループ校である帝京大学の医学部をはじめ、東京大学農学部やいくつかの食品企業とも共同研究を行っています。従って、本専攻で学ぶことにより、関連分野の専門知識の修得やその専門家と協力する能力を身につけることができるようになります。

健康科学研究科 健康栄養学専攻（修士課程）では、
「一般教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細は『社会人学生を対象とした修学支援制度』
のページをご参照ください。

社会のニーズに応える食・栄養・ 健康に関する課題解決能力を養成

教員は、病院における栄養治療やNutritional Support Team（NST）活動、高齢者の栄養管理、健康食品開発、行政での栄養教育、食品分析、厚生労働省委託研究など、近年の大きな社会的課題に関して優れた研究実績と実務経験を有しています。これらの実績と経験を活かし、学生に対して社会のニーズを読み取る能力、社会のニーズに応える課題解決能力を養成します。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

健康科学研究科 健康栄養学専攻（修士課程）

健康科学研究科 健康栄養学専攻（修士課程）は、“食・栄養と健康”に関する高度人材養成、教育・指導者・研究者養成を目指し人々の健康維持増進の実現に貢献することを目的としている。この教育目的を達成するため、以下の入学者を求める。

- 1 食・栄養・健康に関心があり、より専門的な能力を身につけようとする意欲を有している。
- 2 食・栄養に関して研究意欲が高く新規性・独創性のある研究、課題に取り組もうとする能力を有している。
- 3 食・栄養・健康の活動を通して、積極的に社会に寄与、貢献したいと希望している。
- 4 他者へのいたわり・思いやりを持ち、協調性を有している。



健康科学研究科

言語聴覚学専攻

(修士課程)

Graduate School of Health Sciences /
Master's Program in Speech-Language-Hearing Therapy

言語聴覚学領域における

指導的役割を担う

臨床家、研究者を養成します

言語聴覚学は、広い基礎知識を基盤とする学際的な応用の学問です

言語聴覚学は、正常なコミュニケーション過程の科学的究明を基盤として、言語・コミュニケーションの多種多様な問題に関して、その症状の記述、評価、原因の究明を目指す、いわば基礎と臨床を統合した学問分野です。言語科学系、心理・教育・社会科学系、医学系、工学系などに及ぶ広い基礎知識を基盤とする学際的専門領域であり、これらの基礎科学で得られた知識を応用して障害の治療に当たることを目的とします。

高度の専門性を持ち指導的役割を担う臨床家、研究者を養成します

近年、社会の高齢化、医療技術の進歩・高度化に伴う疾病構造の変化や社会システムの変化などに伴い、言語聴覚療法のニーズが多様化しています。本専攻では、これらの社会状況を踏まえ、人間のコミュニケーションの発達とその障害に対する豊かな知識を備え、多様な社会的ニーズに即した支援を行う高度の専門性を持ち、言語聴覚学領域における指導的役割を担う臨床家、研究者の養成を目指します。

言語聴覚学専攻で学ぶことは（専門科目について）

開講されている専門領域科目「言語聴覚学演習」では言語・コミュニケーションを生涯発達の視点から学びます。「言語聴覚障害学演習」では言語の諸問題を多面的・分析的に評価する方法論について、「言語聴覚療法学演習」では訓練技法や包括的支援について、これまでの研究の歩みを学びつつ、内外の文献講読や症例検討から最新の知見について学びます。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
健康科学研究科	言語聴覚学専攻	2年以上4年以下	● 30単位以上 ● 学位論文の審査及び試験に合格した者	修士（健康科学）

Message

言語聴覚障害児・者が抱える 多様な支援ニーズに応えるための 専門的学修と研究指導

本専攻では、「言語聴覚学」「言語聴覚障害学」「言語聴覚療法学」の3つの研究分野について、学修と研究を行います。「言語聴覚学」は、主にコミュニケーションと言語の発達およびその障害について、生涯発達の視点から学び、言語聴覚障害研究の基礎能力を養います。「言語聴覚障害学」は、言語聴覚障害の各専門分野の諸問題を多面的視点から評価・分析するための最新の知識と研究方法を学修し、対象者の抱える問題を、包括的に解釈する力を養います。「言語聴覚療法学」は、各専門分野の訓練技法や包括的支援の方法論を研究し、臨床での実践能力の向上を目指します。本専攻では、各分野で豊富な臨床歴、研究歴を持つ教員が研究指導を行う体制が整っています。自らの明確な問いを持ち、粘り強く積極的に学修と研究を遂行できる人材を求めます。



言語聴覚学専攻長

黒田 生子

Kuroda Seiko

特色

生涯発達の視点から、言語・コミュニケーション機能に関する基礎研究を進めます

乳幼児期から老年期に至る言語・コミュニケーションの発達とその基礎となる認知機能、聴覚、発声・発語機能の発達、およびそれぞれの発達段階で出現する問題や障害、加齢変化について、生涯発達の視点から総合的に学び、言語聴覚障害研究の基礎能力をつけます。言語・コミュニケーションについて各発達段階の特徴を考察しながら、神経心理学的視点、言語発達心理学的視点、認知心理学的視点などから研究を深めます。

多面的視点から 評価・分析するための方法論、及び 訓練・支援法の研究を進めます

観察法、調査法、実験法、事例研究法、エピソード記述を通じた研究法など、言語・コミュニケーション障害の諸問題を評価・分析するための様々な方法論や、個人を包括的に捉える方法論を研究します。また、言語・コミュニケーション障害に対する機能訓練法、障害特性に応じたAACの適用などについて研究を深めます。生活支援、家族支援、教育支援、就労支援の視点から、臨床実践のあり方や地域社会への支援方法についても実証的な研究を行います。

健康科学研究科 言語聴覚学専攻（修士課程）では、「一般教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細は『社会人学生を対象とした修学支援制度』のページをご参照ください。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

健康科学研究科 言語聴覚学専攻（修士課程）

健康科学研究科 言語聴覚学専攻（修士課程）は、言語聴覚学領域における指導的な役割を担う高度専門職業人、教育・指導者、研究者の養成を目的としている。この教育目的を達成するため、以下の入学者を求める。

- 1 言語聴覚障害分野における課題を発見し、課題解決に取り組む意欲や態度、研究に必要な基礎的能力を有している。
- 2 言語聴覚学領域における課題や問題を深く研究する明確な動機と研究意欲を持ち、積極的に研究を遂行できる。
- 3 臨床、教育、研究に必要な基本的協調性と社会性を持ち、言語聴覚士の資格を活かし、わが国と世界の持続・発展に尽くし、貢献する意欲を有している。



健康科学研究科

作業療法学専攻

(修士課程)

Graduate School of Health Sciences /
Master's Program in Occupational Therapy作業療法学領域の
指導者、研究者として、
生涯研鑽し続ける人材を養成します

病気や障がいのある人々の自立（律）的な生活を支援するための作業療法学は、いわゆる実践科学として、人の誕生から死に至るまでを守備範囲としています。作業療法士が働く領域は、身体障害をはじめ、精神障害、老年期、発達障害そして在宅地域と多岐にわたりますが、研究分野も今日では、それらの領域における作業療法学固有の視点に加え、医学、教育、職業、社会、およびリハビリテーション工学等と連携しながら、学際的な広がりの中で実施されています。

本専攻では、急性期から地域で在宅生活を送る障がいのある人々や障害及び介護予備軍を対象に、彼らの作業（occupation）の獲得や遂行を支援するための理論や手法に関する基礎研究をはじめ、病気や障害の有無にかかわらず、すべての生活者の「健康の維持増進」や「障害予防」および「介護予防」に寄与、貢献する応用研究を通して、最新の作業療法学の構築に向けた研究を行います。

具体的な基礎研究としては、手指機能と日常生活動作の分析や心身諸機能と作業活動の解析について、また応用研究では、例えば、高齢者の心身の健康と生活の質（Quality of Life）の維持に必要な環境調整、地域コミュニティの仕組みづくり、余暇社会活動への参加・貢献に関する研究になります。さらに本専攻のカリキュラムポリシーでもある教育者の養成として、作業療法教育とその教育方法に関する研究も奨励いたします。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
健康科学研究科	作業療法学専攻	2年以上4年以下	● 30単位以上 ● 学位論文の審査及び試験に合格した者	修士（健康科学）

Message

新しく総合的な作業療法学を
探究していきます

リハビリテーションを推進する国際モデルであるICF（国際生活機能分類）は、病気や障がいのある人々の心身機能や活動、および参加を促進する要因として、健康状態はもとより環境因子や個人因子のすべてが双方向に影響し合うとしています。作業療法士は、そのいずれの場面でも、対象者の自立（律）的で満足のいく生活を遂行できるよう支援する専門職として、病気や障害により生じた様々な喪失の回復や、障害予防および介護予防に貢献することを目的とした基礎的および応用的研究を行います。

本専攻は、交通至便な池袋キャンパスに開設されていることから、キャリアを中断することなく学修を深化させ、実践的研究能力を修得することが可能です。チャレンジ精神のある研究意欲あふれる方々の入学を歓迎いたします。



作業療法学専攻長

根本 悟子

Nemoto Satoko

特色

実験研究から作業療法介入の手法まで
総合的な力を養成します

障がい者や高齢者の作業遂行能力について、主に身体機能面に関する生体力学的手法による分析を基に、機能回復の方法や生活支援機器、および住環境整備による作業療法介入の手法について研究指導を行います。また、上肢機能障害については、運動学的視点を加味した実験研究も行います。

幼児期から老年期にわたる生活障害の
課題解決能力を養成します

幼児期から老年期までを対象に、人々の生活障害を明らかにし、作業療法士の視点による分析と環境調整による生活の再構築、地域生活支援のあり方に関する研究を行います。研究に際しては、学内にとどまらず、臨地・臨床の場でデータを集めることやフィールドワークを推進していきたいと思っています。

健康科学研究科 作業療法学専攻（修士課程）では、
「一般教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細は『社会人学生を対象とした修学支援制度』
のページをご参照ください。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

健康科学研究科 作業療法学専攻（修士課程）

健康科学研究科 作業療法学専攻（修士課程）では、作業療法分野における高度専門職業人、教育・指導者、研究者を養成するという教育目的に基づき、以下の入学者を求めます。

- 1 作業療法領域における教育と研究に対する意欲と情熱を有している。
- 2 研究に必要な基礎的能力を有している。
学部において卒業研究を行っていることが望ましい。
- 3 主体的に研究を進める意欲と同時に、他者との協調性
および指導を受け入れる姿勢や態度を有している。
- 4 研究を行う過程で困難に遭遇してもめげない
強い意志を有している。



健康科学研究科

理学療法学専攻

(修士課程)

Graduate School of Health Sciences /
Master's Program in Physical Therapy

高度専門職業人として、
医療現場、教育現場で活躍できる
人材を養成します

修士課程の使命は、高度な臨床実践能力と、将来の教育・研究者としての素養を融合させた「高度専門職業人」の基盤を形成することにあります。

【高度な理論・技術と探究能力の融合】

本課程では、リハビリテーション分野における高度な理論と技術を修得するに留まらず、自ら課題を設定し、科学的根拠に基づいて解決に導く「探究能力」を養います。これは、臨床現場におけるエビデンス・ベースド・プラクティス（EBP）を深化させると同時に、教育現場において後進を理論的に指導できるリーダーシップの芽を育てるプロセスであるためです。

【臨床現場への戦略的価値】

修士課程を通じて培われる協調性とリーダーシップは、組織の質を底上げするための重要な人的資本となります。課題解決能力を備えた人材は、現場でのリーダーとして多職種との連携を円滑にし、臨床の質を革新するエンジンとなり、修得した分析能力と研究能力は、博士課程におけるより高度な「創造的開発」へと昇華される方々を養成します。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
健康科学研究科	理学療法学専攻	2年以上4年以下	● 30単位以上 ● 学位論文の審査及び試験に合格した者	修士（健康科学）

Message

最新の医療に即応する「高度な専門性」と 「横断的な広い視野」を持った 独創性豊かな研究者を養成します

本専攻では、臨床場面での疑問を科学的に解明するために必要な基礎知識と技法を身につけ、論理的な展開が図れる高度な保健・医療の実践者、研究者、教育者を養成することを目的とします。研究論文指導を担当する教員は、十分な現場での臨床経験を経て、教育経験や研究業績を有しています。池袋キャンパスは、交通のアクセスが良い点とフレックスな時間割を設定しているので、在職したまま大学院の課程が学べます。首都圏で勤務している理学療法士及び理学療法領域に関心のある方々の入学を期待しています。



理学療法学専攻長
加藤 勝行
Kato Katsuyuki

特色

臨床に関わる身体計測機器による 研究が可能です

3次元動作解析装置（VICON）、脳機能計測装置（fNIRS）、骨密度計、重心動揺計、足底圧分布測定装置、超音波、筋電図などの測定機器を使用した研究、臨床研究、新しい治療技術の開発の基礎研究が可能です。

基礎領域から専門領域まで自らの興味、 関心に合う研究が可能です

理学療法学の基礎である「障害の評価・分析」に関する研究領域から「スポーツ理学療法」「高齢者の理学療法」「高次脳機能障害」などの応用理学療法領域までカバーしており、自らの興味、関心領域から研究テーマを選択できます。2年間で選択したテーマに関して計測・調査・実験を行い、院内発表や学会発表を通じて修士論文を完成させていきます。

健康科学研究科 理学療法学専攻（修士課程）では、
「一般教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細は『社会人学生を対象とした修学支援制度』のページをご参照ください。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

健康科学研究科 理学療法学専攻（修士課程）

健康科学研究科 理学療法学専攻（修士課程）は、理学療法学領域またはスポーツ医科学領域における専門技術を高めるとともに、様々な分野との連携を通して、学術的な発展を目指す高度専門職業人、教育・指導者、研究者を養成するため、以下の入学者を求める。

- 1 明確な研究意識を持ち、意欲的に情報収集して問題解決にあたることができる。
- 2 リハビリテーション医療チームまたはスポーツ医科学領域の高度専門職業人、教育・指導者、研究者の一員として、協調性を有している。
- 3 コミュニケーション能力と、国際的な視点に立って、社会に貢献する意欲を有している。



健康科学研究科

救急医療学[※]専攻

(修士課程)

Graduate School of Health Sciences /
Master's Program in Emergency Medical Science

救急医療学の基礎を築き、 新たな時代を創る 指導的な人材を養成します

救急救命士制度の誕生から30年以上が経過した昨今、高齢化による重症傷病者の搬送件数が増加し、医学的処置を行いながら搬送する救急救命士が注目されています。これまで救急救命士の働く職場は消防機関に限定されておりましたが、2021年の救急救命士法の改正により、病院内でも救急救命処置が行えるようになりました。近年、救急救命士による処置範囲拡大の議論が進む中、医学的知識や技術を深めた救急救命士が救急搬送に関わるようになりました。特に、病院で行われている医療とは大きく異なる病院前救急医療では、学問体系が未だ確立されていない現状にあります。このような状況にあって本専攻では、日本救急医学会の救急専門医として救急医療の最前線である救命救急センターなどで活躍してきた教授陣を中心に、救急医療学の基礎を築き、新たな時代を創る指導的な人材の養成を目指しています。

具体的には、蘇生学、外傷学、災害医学、急性中毒学、感染症学、救急医療システム学などについて専門の教員から指導を受けます。救急医療システム学については、日本の現状を知るばかりではなく、欧米のシステムの現状を学んで今後のわが国のシステム改善に向けた議論を深めることを目標にしています。また、東日本大震災後に注目されている災害医学についても「救急救命士を含む医療従事者に何ができるのか」を問い直すことから検討しているところです。

ハードルはまだまだ高いものの、救急救命士の活躍の場は今後さらに拡大するものと期待されます。そのときにすぐ役に立つ人材を育てていくのが本専攻の責務と考えています。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
健康科学研究科	救急医療学専攻 [※]	2年以上4年以下	● 30単位以上 ● 学位論文の審査及び試験に合格した者	修士（健康科学）

Message

国際的な視野を持ち、 救急救命領域における高度な知識と 実践力を備えた人材を養成します

本専攻は、指導的な救急救命士を養成するために生まれた専攻です。救急救命士が誕生して30年以上が経過した今日、専門職として先輩救急救命士が自分たちの後輩を育てていく時代が来たと思われます。そのためには国際的な視野を持ち、科学的思考力を身につけて、高等教育機関で教育職に就く学識と能力を持った指導的な救急救命士が求められます。救急医療に関わる幅広い領域に問題点を見つけ、科学的な思考で解決していく能力を身につけた人材を養成します。救急医療を学びたい医療系職種に従事している方も歓迎致します。



救急医療学専攻長

斧 康雄

Ono Yasuo

特色

充実した教授陣により 指導的救急救命士を養成します

本専攻では、救命救急センターで長年経験を積んだ日本救急医学会専門医等が教授陣として救急救命士の指導者となるべき人材の養成に努めています。救急救命士の救命処置などの業務拡大が検討される中、特に病院前救急医療には医療の視点を持った指導的救急救命士の存在が求められています。そのため、関連する救命救急センターで研修を行うなど、医療の現場との接点を大切にするとともに、国際的視野を持った研究者として、また優れた指導者として自立できるよう指導しています。

多様な医療関連の学問を学び、多彩な医療職と コミュニケーションを取れる能力を身につけます

今、医療界ではチーム医療が大切なキーワードになっています。医療に関わる多くの職種の人たちがコミュニケーションを通じて関わる他職種連携や講義、シミュレーション教育を通じて実践に還元できる能力を養成し、医療の質の向上を目指しています。

健康科学研究科は、本専攻を含む9つもの医療に関する専攻があります。院生同士あるいは院生と教員の交流により、多様な医療関連の学問に接するとともに、他職種とのコミュニケーションを通して医療人としての幅広い人間性を育むことができます。

健康科学研究科 救急医療学専攻（修士課程）では、
「一般教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細は『社会人学生を対象とした修学支援制度』
のページをご参照ください。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

健康科学研究科 救急医療学専攻※（修士課程）

健康科学研究科 救急医療学専攻※（修士課程）は、救急医療学分野における高度な専門的知識と技術を備えた職業人、教育・指導者、研究者を養成するという教育目的に基づき、以下の入学者を求める。

- 1 救急医療学領域における研究と教育に対する意欲と情熱を有している。
- 2 自ら学ぶことができ、物事を論理的に考えることができる能力を有している。
- 3 倫理的な問題に真摯に向き合い、その解決に向けて取り組む意欲を有している。
- 4 社会的関心を持ち、国際的な視野に立ってものごとを捉え、考える力を有している。

※2027年度名称変更予定



健康科学研究科

臨床心理学専攻

(博士課程)

Graduate School of Health Sciences /
Doctoral Program in Clinical Psychology

臨床心理学実践と 研究の発展に貢献できる 臨床心理学者を養成します

本専攻では、本学の建学の精神である「実学の精神」に則り、臨床心理学の実践方法の開発・発展に寄与する研究課題について、高い倫理観と旺盛な探求心を持ち、科学的で実証的な視点から問題解明に取り組み、有意義な研究成果を上げるとともに、臨床活動の専門性を高め、将来臨床心理学領域の指導者として活躍できる臨床心理学の専門家を養成することを目的としています。

博士課程に応募するためには、大学院修士課程修了程度の学力を有し、臨床心理学の高度専門職業人として認められる実践能力と実績を有することが条件になります。これらの方のうち、①人と心に対する深い理解力とともに臨床心理学の実践方法を改善しようとする問題意識を持ち、②臨床心理領域における科学的検討の方法論を身につけることに意欲を持ち、③心理的問題を抱える人々への支援方法の改善を通して社会への貢献を希望する方を求めています。

博士課程では、臨床心理の専門家としての知識や理論の修得と、人間の心に関わる幅広い問題に対して真摯に研鑽を積み、将来、独立した研究者あるいは臨床心理領域の指導者として活躍できる専門家を養成するため、体系的で専門的なカリキュラムを組んで教育を実施しています。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
健康科学研究科	臨床心理学専攻	3年以上6年以下	●16単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	博士（健康科学）

Message

心理の世界を探究し 臨床研究の発展に 貢献できる研究者を養成します

近年、我が国では様々な領域で心の問題が発生し、臨床心理の立場からの問題説明や支援が求められています。学校ではいじめ、家庭では虐待やDV、職場では様々な人間関係が問題となり、地域では引きこもりや孤立の問題があります。以前の日本社会に備わっていた家族や地域の支援力が弱まる中で、現代人の孤立化と生きづらさが進行していると言えるのではないのでしょうか。こうした中で臨床心理学の役割はますます大きくなっています。

本専攻は、高度専門職業人としての実践経験を持つ方が、さらに深く臨床心理学を学び、臨床心理学の実践方法の開発・発展に寄与する課題を研究するために設けられました。臨床心理学の実践の中から生じた問題意識を発展させ、研究を企画し推進していく意欲のある方々が本専攻で学ばれることを期待します。



臨床心理学専攻長

馬場 洋介

Baba Hirotsugu

特色

心理臨床の幅広い領域を学び、問題を 実証的に捉えて研究する能力を養成します

本専攻では、臨床心理の専門家としての知識や理論を修得し、人間の心に関わる幅広い問題に対して真摯に研鑽を積み、将来、独立した研究者あるいは臨床心理領域の指導者として活躍できる専門家を養成します。そのため、精神医学や脳・神経科学はもとより、基礎心理学や人間を取り巻く様々な問題に取り組み、問題を実証的に捉えて研究していくようなカリキュラムを組んでいます。

現代的な問題に積極的に関わり、未来への 展望を切り開く指導的人材を養成します

東京都豊島区という都市部にある大学院として、都市が直面する様々な現代的課題に積極的に関わり、現代社会と地域に根差した実学的な研究を進められるように指導していきます。

健康科学研究科 臨床心理学専攻（博士課程）では、
「一般教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細は『社会人学生を対象とした修学支援制度』
のページをご参照ください。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

健康科学研究科 臨床心理学専攻（博士課程）

健康科学研究科 臨床心理学専攻（博士課程）の教育目的は、本学の建学の精神「実学の精神」に則り、臨床心理学の実践方法の開発・発展に寄与する研究課題について、高い倫理観と旺盛な探求心をもち、科学的で実証的な方法論を身につけ、創造的に問題説明に取り組んで研究成果をあげることである。この教育目的を達成するため、以下の入学者を求める。

- 1 人と心に対する深い関心と理解力を持ち、臨床心理学の実践方法を改善するための問題意識を有している。
- 2 関連領域の研究成果の学習につとめ、自らの問題意識をその中で発展させていくことができる。
- 3 臨床心理領域における問題解決のための科学的方法論に関心をもち、それを体得していく意欲と能力を有している。



健康科学研究科

健康科学専攻

(博士課程)

Graduate School of Health Sciences /
Doctoral Program in Health Sciences

修士課程の各専攻に対応した 7つの分野で知識や研究能力を さらに高めていきます

健康科学研究科の博士課程は2専攻（健康科学専攻、臨床心理学専攻）で構成されています。健康科学専攻の教育目標は、医療専門職の指導や教育に携わる人材を養成するとともに、保健、医療、福祉、介護の各分野、健康科学及び学際的分野の研究者を養成することです。健康科学専攻の中には修士課程の7専攻に対応した7つの分野が設置されており、修士課程から博士課程へと続く専門分野の連続性が保たれています。修士課程での研究課題を続けて探求し、知識や経験をさらに発展・深化させることができます。また、過去に修士課程を修了した人が、関連する別の研究課題や学際的分野の研究を志すことも可能です。

医療専門職の指導者・教育者や臨床研究者は、知識に加え、実践能力・応用能力、問題解決能力、そして高い倫理観を身につける必要があります。博士課程修了後は、修得したこれらの専門知識や論理的思考力を活かして、各々の専門分野でリーダーとして活躍することが期待されます。

研究科	専攻	分野	在学期間	修得単位及び条件	学位
健康科学研究科	健康科学専攻	鍼灸学分野 柔道整復学分野 健康栄養学分野 言語聴覚学分野 作業療法学分野 理学療法学分野 救急医療学分野※	3年以上 6年以下	●16単位以上 ●学位論文の審査及び 試験に合格した者	博士 (健康科学)

Message

医療現場で直面した壁を乗り越え 道を拓き発信する それが博士課程の研究

世界に冠たる長寿国、日本。その日本で、誰も経験したことのない未曾有の超高齢社会が進行しています。健康寿命の延伸はもはや、医療のみならずこの国の未来を左右する大命題です。健康科学関連分野はまさにこの時代のニーズに直結する領域であり、本研究科も社会の様々な要請に応える存在でありたいと思っています。

現場での臨床経験を積み、さらに修士課程を終えた医療人であれば、誰もが一度は「目に見えない医療の壁」を感じたことがあるでしょう。壁に沿って横に進むしかないと諦めてしまう人もいます。その一方で、壁を乗り越え、新たな道を拓きたいと努力を惜しまない人がいます。私たちは後者の医療人を待っています。



健康科学専攻長

和泉 孝志

Izumi Takashi

健康科学研究科 健康科学専攻（博士課程）では、
「一般教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細は『社会人学生を対象とした修学支援制度』
のページをご参照ください。

入学受入れの方針（アドミッションポリシー）

健康科学研究科 健康科学専攻（博士課程）

健康科学研究科 健康科学専攻（博士課程）の教育目的は、健康に関わる諸問題に対し複眼的な視点から研究を行うことができる各専門分野の高度専門職業人、教育・指導者、および研究者を養成することである。この教育目的を達成するため、以下の入学者を求める。

- 1 本専攻の研究分野に含まれている保健、医療、福祉、介護の各専門領域、および関連する学際的分野の諸課題に関心を持ち、研究を行う意欲と能力を有している。
- 2 修士課程修了レベルの学力や研究経験があり、研究に必要な基礎的・応用的能力を有し、倫理的側面を含む研究関連の基本的事項を理解している。

鍼灸学分野

鍼灸学分野の目的は、修士課程までに修得した鍼灸学領域の知識をさらに発展させ、将来独創性の高い研究を遂行できる研究者または高度な専門性を有した医療人となるための能力を培うことです。そのために様々な知見を修得する講義と演習からなる本専攻の専門科目に加え、鍼灸医学領域の研究者または医療人になるために必須となる「健康科学特別研究」によって構成されるカリキュラムが用意されています。

柔道整復学分野

柔道整復学分野では、柔道整復学および関連領域において、自立した研究活動を行うことができる研究者・教育者の養成を目的としています。

修士課程では、経験に基づく柔道整復の施術を科学的に検証し、その成果を臨床現場へ還元することを主な教育目標としてきました。博士課程ではこれをさらに発展させ、研究課題を自ら設定し、関連文献の検索・読解、研究計画の立案から実行に至るまで、一連の研究プロセスを主体的に遂行できる能力を養います。

本分野では、臨床研究の思考法と研究者としての視点を身につけ、高度な専門性を有する研究者、教育者、研究指導者として活躍できる人材の育成を目指しています。

健康栄養学分野

健康栄養学分野では、修士課程で修得した“栄養・食に関する課題設定・問題解決・成果発表能力”をより高度なレベルに高める教育を行います。また、このような問題解決には関連職種の専門家との協力が不可欠です。関連の専門家と協力して研究を行う経験を積んで、真のコミュニケーション能力を培います。さらに、英語論文を積極的に読む習慣を修得し、英語の読解力・発表能力を身につけ、国際的に活躍できるように支援します。これらを通して、栄養・食の領域で指導者として活躍できる能力を養成します。

言語聴覚学分野

言語聴覚学分野では、修士課程での教育研究をさらに深化させ、広く社会に貢献できる問題解決能力を持ち、言語聴覚領域の先駆的な研究を推進できる研究者、教育者、臨床家の養成を目指します。広い研究視野の形成のために、言語・コミュニケーションを生涯発達の視点から研究する「言語聴覚学」、言語の諸問題を多面的・分析的に評価するための方法論を研究する「言語聴覚障害学」、訓練技法や包括的支援について研究する「言語聴覚療法学」を教育の大きな3つの柱としています。

作業療法学分野

作業療法学分野では、修士課程で修得した研究能力をさらに高め、作業療法固有の視点に基づく研究を奨励いたします。例えば、病気や障がいのある人々が意味のある作業や役割を遂行できるよう、新しい能力評価や支援の手法を開発研究できる人材の養成を目指しています。さらにまた、高齢者をはじめ人々の健康維持や増進、および障害予防や介護予防に向けて、他領域とも連携した学際的かつ新規性に富んだ研究を通し、人々の自立（自律）生活支援に貢献できる教育・研究者を養成します。

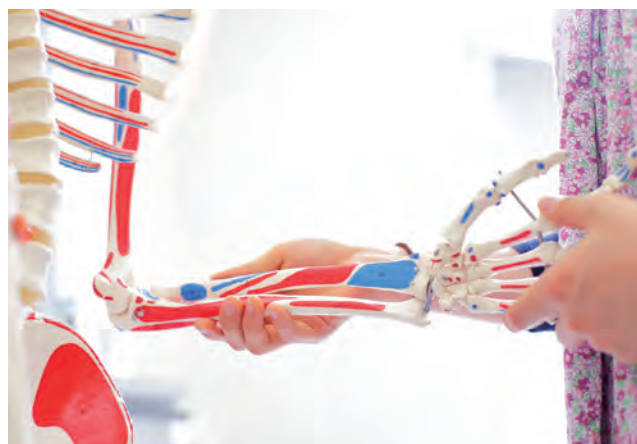
理学療法学分野

【新時代の総合保健医療を創造する革新者】修士課程で培った分析・問題解決能力をさらに高度化させ、社会情勢の変化に即応できる「独創性豊かな教育・研究者」を養成することを目的としています。

また「新しい総合保健医療」の創造と社会実装とは、「創造的・開発的研究」を通じて新しい総合保健医療の枠組みを創造・実践することにあります。本課程では保健、医療、福祉、介護が複雑に絡み合う現代において、理学療法士としての専門性を軸に、医療専門職の研究・教育能力を高め、高度な連携を主導する「多職種連携の要」としての役割は極めて重要であることから、自らの独創的な研究成果を社会に還元し持続可能な保健医療体制の構築を牽引する理学療法士を輩出することをも目的としています。

救急医療学分野[※]

救急医療は、国民の生活に直結する重要な社会インフラです。救急搬送サービスに医療の視点を取り込んだ救急救命士制度において指導者としての資質を有する人材が求められています。博士課程では、病院前救急医療と施設内での救急医療学の知識や技術を蓄積し、国際的な視野を持ち、自立して救急医療学の研究・開発ができる専門家を養成することを目的としています。





臨床心理学専攻（専門職学位課程）

臨床心理学研究科

Graduate School of Clinical Psychology /
Professional Degree Program in Clinical Psychology

臨床現場で求められるものに
対応できる高度な専門性を備えた
臨床心理士・公認心理師を養成します

本研究科は、2011年4月に東日本で最初の臨床心理専門職大学院として開設されました。

近年、様々な領域で心の問題が発生し、専門性の高い心理的支援への期待が高まっています。こうした中で、臨床心理士・公認心理師には、心の問題に的確に対応できる、より高度な専門性が求められています。本研究科では、このような社会のニーズに対応し、臨床心理の理論教育をきちんと行った上で、提携機関での豊富な外部実習、附属臨床心理センターでの臨床事例担当、きめ細かい指導による事例研究などを通じて、様々な現場の問題に的確に対応できる即戦力の実践家の養成を目指しています。

本研究科修了者には、「臨床心理修士（専門職）」の学位が授与されます。また、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の臨床心理士受験資格が与えられ、受験科目のうち小論文が免除されます。さらに、本大学院の「健康科学研究科臨床心理学専攻（博士課程）」への進学が可能です。

2018年度から公認心理師試験受験資格にも対応した授業を行っています。大学院入学前に公認心理師法に定められた所定の科目を履修し要件を満たした方は、本大学院を修了すると公認心理師の受験資格が与えられます。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
臨床心理学研究科	臨床心理学専攻	2年以上4年以下	● 50単位以上	臨床心理修士（専門職）

Message

入り口は資格取得、 その先は心理臨床の実践家へ

—多様なキャリアの基礎づくりを支援します—

心の問題を抱える人のお役に立ちたい、その出発点は資格取得です。私たちは、これまで蓄積したノウハウを活かして、臨床心理士と公認心理師の資格取得への充実した支援を提供し、直近3年間における修了生の臨床心理士・公認心理師平均合格率は、臨床心理士98%、公認心理師97%であり、高い合格率の実績があります。

即戦力としての臨床心理士・公認心理師の養成は、本学の建学の精神である「実学」の趣旨に沿うものです。この目的を達成するため、本研究科では、附属の臨床心理センターにおいては多彩で豊富な事例担当を手厚いスーパービジョンを受けながら経験し、学外の実習機関においては豊富に実践経験する機会を提供しています。

2026年度は、専任教員12名と臨床心理センターカウンセラー4名を配置し、院生一人ひとりにアドバイザーを付け、きめ細かな指導を行います。アドバイザーは、臨床家としての一歩を踏み出すための、力強いサポーターとなります。

就職活動についても、学内の就職支援室と連携しながらきめ細かくサポートしています。修了生の就職先は、医療機関をはじめ、自治体、子ども家庭支援センター、教育相談センター、および、大学の学生相談室、EAPなど、多岐にわたります。

心理臨床の初心者が次第に心理臨床のプロフェッショナルとして成長していく姿を見るのは、私たちのやりがいでもあります。私たちは臨床心理の実践家の志と意欲を持つ方々を院生として迎え、心の問題を抱える人々への適切な支援を一緒に考えることを楽しみにしています。



臨床心理学研究科長

馬場 洋介

Baba Hirotsugu

特色

理論だけではなく、多彩で豊富な 実習により実践的能力を鍛えます

学内実習は、充実したスタッフと設備を備えた臨床心理センターで行います。学生は教員等による丁寧な指導を受けながら、十分な数の面接や心理検査を担当します。

外部実習は、医療・福祉、地域保健・産業、学校・教育の3領域のうち、1年次に専攻領域以外の2領域で各々2ヵ月、2年次に専攻領域で8ヵ月、それぞれ週1日参加し、様々な現場を経験し指導を受けます。

少人数による きめ細かな指導を行います

2学年で34名の大学院生に対し、12名の専任教員と4名の臨床心理センターカウンセラーを配置し、院生一人ひとりに指導教員をつけ、きめ細かな指導を行います。

また、臨床心理士資格取得のために、独自の模擬試験、少人数指導、ITを活用した学修などの手厚い支援を行います。なお、2018年度から公認心理師試験受験資格にも対応した授業を実施しています。

臨床心理学研究科臨床心理学専攻（専門職学位課程）では、
「専門実践教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細は『社会人学生を対象とした学修支援制度』
のページをご参照ください。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

臨床心理学研究科 臨床心理学専攻
（専門職学位課程）

臨床心理学研究科 臨床心理学専攻（専門職学位課程）の「実学の精神を基として、豊かな人間性を持ち、多様で複雑な心の問題に創造的で柔軟に対応できる臨床心理分野の高度専門職業人を養成する」という教育理念と目的を達成するため、以下の入学者を求める。

- 1 人と心に対する深い関心と理解力を有している。
- 2 柔軟で安定した対人関係能力を有している。
- 3 社会人としての良識と対人援助を行う専門家としての高い倫理観を有している。
- 4 臨床心理学の高度専門職業人を目指す強い意欲を有している。

専門領域及び指導内容／専門職学位課程

※研究指導内容等は変更になる場合があります。

専門領域	指導内容
医療・福祉	医療現場で臨床心理の専門性を活かしながら、チーム医療の一員として信頼される心理職となるための指導を行います。精神疾患への対応だけでなく、身体疾患に伴う心理的課題に関しても、的確にアセスメントを行い効果的に介入することができるのはもちろん、医療制度や医療従事者の役割を理解し、チーム医療の一員として多様な職種と連携して協働できる多角的な視野と柔軟な思考力をあわせ持つ専門家を養成します。
地域保健・産業	地域住民や職場における労働者の精神的健康の向上を図り、精神的健康問題に取り組むことのできる心理職を目指します。精神的健康問題の把握方法やアセスメント、精神病理、組織への働きかけ、さらには関連する法令・制度等について理論と事例を基に学びます。個人の能力だけでなく、関連する専門家等と連携しながら現場の資源や制度を活用し、組織の改善を行うなど実践力を柔軟に発揮できる専門家を養成します。
学校・教育	教育現場や家庭、地域社会において、子どもの心の問題の理解や取り組みだけでなく、それぞれの力を発揮できる環境を構築するために必要な知識、技能、倫理、態度等を学びます。また、教育施設での実習で経験し学んだことを全員で共有し、子ども個人のみならず、取り巻く環境に目を向けてディスカッションを行い、豊富な知識と実践的で高いスキルをそなえた専門家を養成します。



看護学専攻 (修士課程) /
看護学専攻 (博士課程)

看護学研究科

Graduate School of Nursing Science /
Master's Program in Nursing Science /
Doctoral Program in Nursing Science

高度専門職業人として、専門性の高い
看護実践能力と看護教育・研究能力を
有する人材を養成します

帝京平成大学の学是である「建学の精神」は、「実学の精神を基とし幅広い知識と専門分野における実践能力を身につけ創造力豊かな逞しい人間愛にあふれた人材を養成する」です。この学是のもとに設置された看護学研究科 看護学専攻の目的は、「本学の建学の精神に則り、高度専門職業人として、複雑化・高度化する医療保健福祉分野における課題を広く理解し、専門性の高い看護実践能力と看護教育・研究能力を有する人材を養成する」ことです（帝京平成大学大学院学則）。

昨今の飛躍的進化を遂げているDX戦略や生成AI、少子高齢化・人口減少、多発する激甚化災害などは、医療・看護・保健分野にも大きな影響をもたらし、私たち看護職に種々様々な課題を突きつけています。これら山積する課題を、学際的な視点から探求・分析し解決に導くためには「専門性の高い看護実践能力」や「看護研究推進能力」が不可欠です。

本研究科の修士課程では、8つの基幹看護領域（基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、精神看護学〔現在非開講〕、母性看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学）を、博士課程では3つの研究領域（基盤看護学：看護教育・キャリア開発／看護倫理学、ケア実証看護学：成人・高齢者看護実践開発／小児看護実践開発、地域包括看護学：地域・在宅支援看護学／地域保健看護学）を配置し、徹底した実学教育のもと、社会に貢献できる人材を養成いたします。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
看護学研究科	看護学専攻	2年以上4年以下	● 30単位以上 ● 学位論文の審査及び試験に合格した者	修士(看護学)
		3年以上6年以下	● 16単位以上 ● 学位論文の審査及び試験に合格した者	博士(看護学)

Message

学際的な視野から、現代社会における
看護課題を自ら考究し、
その成果を看護実践に生かすことが
できる研究者を養成します

～看護「学」という学問を通して、
「考える力」を一緒に鍛えませんか！～

さて、私が大学院在学時に恩師から頂戴した、次の「ことば」は「考える力」を鍛える原動力になりました。

- 「考える力」のない人は、実社会では淘汰されます。大学院では教えてもらったことを鵜呑みにするのではなく自分なりに反芻してみなさい。人は「考える力」によって育てられ、鍛えられ、「人財」になっていきます。
- 問題（研究テーマ）は何か、問題はなぜ存在するのか、問題に対して何ができ、何をすべきなのかという「明確な問題意識」こそが研究に取り組むためのスタートです。

研究に真摯に取り組み、学際的な視点から看護課題について考究し、その研究成果を実践につなげていくことができる意欲のある方、「考える力」を一緒に鍛えませんか!!



看護学研究科長
吉澤 千登勢
Yoshizawa Chitose

特色

個々の研究課題について、
学際的な視野から深く掘り下げるための高度な専門知識や技術を修得するとともに、
学術研究を自ら推進することができる能力を修得することができます

修士・博士課程とも、自身が関心のある研究領域において、高度な専門知識や技術を系統的に学び、研究が推進できるよう、カリキュラムを配置しています。また、研究の推進・論文の完成に向けては、ゼミ（研究科目：看護学特別研究）の他、集団ゼミ（他学年や他領域の院生との合同ゼミ、副指導教員による助言）の機会も提供し、学生が広い視点から自身の研究内容をリフレクションできるよう支援いたします。

講義・ゼミなどは、中野キャンパス（中野）・千葉キャンパス（千葉※）で開講します

入学時に自身が関心のある看護領域を選択し、当該領域が属するキャンパスにて講義やゼミを受講することができます。自身が通学しやすいキャンパスで学修することが可能です。

※2027年度より、千葉キャンパスからちはら台キャンパスに移転することを予定しております。計画は予定であり、今後変更の可能性あります。

看護学研究科 看護学専攻（修士課程・博士課程）では、
「一般教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細は『社会人学生を対象とした修学支援制度』のページをご参照ください。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

看護学研究科は、その教育・研究目的を達成するために、建学の精神に則り、以下の入学者を求める。

- 1 各専攻が求めている入学要件を満たす能力を有している。
- 2 医療・看護・保健の実践・教育分野において、高度な専門職業人として、自ら見出した研究課題について意欲的に学修・研究することができる意志を有している。
- 3 高い倫理観のもと、責任感をもって研究を遂行できる能力を備えている。

看護学研究科 看護学専攻（修士課程）

看護学研究科 看護学専攻（修士課程）は、その教育・研究目的を達成するために、建学の精神に則り、以下の入学者を求める。

- 1 自ら見いだした看護課題について具体的な問題意識をもち、当該課題の関連分野において熱意をもって学び探究することができる。
- 2 生命倫理や医療・看護の倫理を尊重しながら看護研究とその実践に取り組む積極性と行動力を備えている。

看護学研究科 看護学専攻（博士課程）

看護学研究科 看護学専攻（博士課程）は、その教育・研究目的を達成するために、建学の精神に則り、以下の入学者を求める。

- 1 専門的知識や技術に関する看護実践能力および基礎的な研究能力を有し、大学院で学修・研究する明確な意志を有している。
- 2 医療・看護・保健の実践・教育分野で活躍しており、博士論文の作成につながる独創性のある具体的な看護課題を提起し、その解決に向けて探究することができる論理的な思考力を有している。
- 3 高い倫理観のもと、責任感をもって、主体的に研究を遂行できる能力を有している。



情報科学専攻／

社会情報学分野・健康情報学分野（修士課程）

通信制大学院

情報科学研究科

Graduate School of Information Sciences

(Correspondence Course) /

Master's Program in Information Sciences

情報科学と社会人の経験知を 融合させた研究を 実践する人材を養成します

情報技術革新の急速な進歩は、社会の高度情報化と経済のグローバル化をもたらしました。それらは産業構造や職業・技能の分野のみならず、日常社会のあらゆる分野に大きく影響を及ぼしています。

教育・研究の世界も、このような変化に対応することが求められています。とりわけ、既に社会人として活躍する方が新たな知識を身につけ知的レベルアップの機会が得られるよう、社会に開かれた大学院にその役割が期待されています。しかしながら、仕事を持っている方が大学院に通うことは容易なことではありません。それを可能にする選択肢として、通信制大学院があります。

通信制大学院情報科学研究科は、変革と発展を続ける現代社会で発生する多様な社会問題を、情報科学を活用して解決しようとする熱意と探求心を持って研究を遂行する意志のある方を求めています。社会人生活と研究を両立させながら高度の教育・研究の道に進める本学の通信制大学院で、人生の新しい可能性を見つけてください。

研究科	専攻	分野	在学期間	修得単位及び条件	学位
情報科学研究科 （通信制）	情報科学 専攻	社会情報学分野 健康情報学分野	2年以上 4年以下	● 30単位以上 ● 学位論文の審査及び試験に合格した者	修士 （情報学）

Message

社会と医療の動きに 情報科学を結びつける専門教育と研究

科学技術の発展とともに情報技術が飛躍的に発展しました。自然環境の変化、生活環境の複雑化など、人間が生きていくための環境も大きく変化してきています。大規模データベースの構築と解析により、自然環境や生活環境の改善に資する多くの情報がもたらされるようになりました。人が健康を維持し、豊かで充実した生活を送るためにも、あふれる情報からの的確に必要な情報を選択し、人間と自然環境・生活環境が共生した持続可能な社会を構築しなければなりません。情報科学の知識と技術を修得し、人類の幸福と福祉に貢献するための熱意を持ち、探究心と実行力のある方々の入学を期待しております。



情報科学研究科長
矢ノ下 良平
Yanoshita Ryohei

特色

情報技術の革新に対応し、 社会的課題を解決する研究

■ 社会情報学分野

情報工学技術の基礎から応用に至る幅広い教育と研究を行っています。例えば、情報工学技術の分野では画像認識や情報の表現法に関する研究、応用的分野では防災を目的とした環境問題や都市計画による生活環境の改善に関する研究を行っています。個々の専門分野の知識・技術を深めることにより、専門を超えた幅広い分野にも対応できる人材の養成を目指します。

情報科学を活用し、 健康と福祉の質の向上を目指す研究

■ 健康情報学分野

理学療法、作業療法、言語聴覚、臨床心理、鍼灸、柔道整復など幅広い医療関連分野において、情報技術分野との融合を図りながら、情報科学の視点から学際的研究を行っています。個人の健康増進のみならず、公衆衛生の視点から健康と福祉の質の向上に取り組む人材の養成を目指します。

入学受入れの方針（アドミッションポリシー）

通信制大学院 情報科学研究科 情報科学専攻（修士課程）

通信制大学院 情報科学研究科 情報科学専攻（修士課程）は、人間の健康や社会生活に影響を及ぼす自然と生活環境の要因を対象に、情報学・情報工学を含めた多様な学術領域の知識や技術を用いて、的確に分析、評価、予測することにより、人間が健全でより良い生活を送ることができる社会環境と生活環境を構築できる人材の養成のため、以下の入学者を求める。

- 1 多角的・学際的視野と各専門分野における高度な専門的実践能力を身につけ、現代社会の発展と変革にともなう種々の問題に 대응するために、実社会において活躍・貢献したいと志している。
- 2 探究心をもって地道な努力をいとわず研究に励む決意がある。
- 3 人間の健康および幸福と福祉に貢献する志をもっている。
- 4 学部卒業後、社会人としての実社会での活動を通して、さらなる専門能力のステップアップ、研究活動の必要性を認識している。

学費

■2027年度 納付金

(単位:円)

区分			通学 キャンパス	入学金	授業料	施設設備整備費	学生傷害保険料	合計(入学手続時)	
				入学時のみ	半期分 (年額)	半期分 (年額)	入学時のみ	半期分 納付の場合	年額 納付の場合
薬学研究科	博士課程	学外出身者	中野	200,000	380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	3,300	683,300	1,163,300
		学内出身者			380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	3,300	483,300	963,300
情報科学研究科	修士課程	学外出身者	中野	200,000	380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	1,750	681,750	1,161,750
		学内出身者			380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	1,750	481,750	961,750
	博士課程	学外出身者	中野	200,000	380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	2,600	682,600	1,162,600
		学内出身者			380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	2,600	482,600	962,600
経営学研究科	修士課程	学外出身者	中野	200,000	380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	1,750	681,750	1,161,750
		学内出身者			380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	1,750	481,750	961,750
健康科学研究科	修士課程	学外出身者	池袋	200,000	380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	1,750	681,750	1,161,750
		学内出身者			380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	1,750	481,750	961,750
	博士課程	学外出身者	池袋	200,000	380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	2,600	682,600	1,162,600
		学内出身者			380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	2,600	482,600	962,600
臨床心理学研究科	専門職 学位課程	学外出身者	池袋	200,000	380,000 (760,000)	210,000 (420,000)	1,750	791,750	1,381,750
		学内出身者			380,000 (760,000)	210,000 (420,000)	1,750	591,750	1,181,750
看護学研究科	修士課程	学外出身者	中野	200,000	380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	1,750	681,750	1,161,750
		学内出身者			380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	1,750	481,750	961,750
	博士課程	学外出身者	中野	200,000	380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	2,600	682,600	1,162,600
		学内出身者			380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	2,600	482,600	962,600

*学内出身者は入学金を免除します。●教科書等については、別途費用がかかります。

■社会人入学者で、通常4年のところ5年かけて修了したいと希望する者(授業料4年分を概ね5等分)

(単位:円)

区分			通学 キャンパス	入学金	授業料	施設設備整備費	学生傷害保険料	合計(入学手続時)	
				入学時のみ	半期分 (年額)	半期分 (年額)	入学時のみ	半期分 納付の場合	年額 納付の場合
薬学研究科	博士課程	学外出身者	中野	200,000	304,000 (608,000)	100,000 (200,000)	4,050	608,050	1,012,050
		学内出身者			304,000 (608,000)	100,000 (200,000)	4,050	408,050	812,050

*学内出身者は入学金を免除します。●教科書等については、別途費用がかかります。

●2年次～5年次納付金(年額):808,000円(授業料:608,000円、施設設備整備費:200,000円)

上記の長期履修学生制度を希望する場合、出願時のみ受付となり、途中で変更はできません。

■社会人入学者で、通常2年のところ3年かけて修了したいと希望する者（授業料2年分を概ね3等分）

(単位:円)

区分			通学 キャンパス	入学金	授業料	施設設備整備費	学生傷害保険料	合計(入学手続時)	
				入学時のみ	半期分 (年額)	半期分 (年額)	入学時のみ	半期分 納付の場合	年額 納付の場合
情報科学研究科	修士課程	学外出身者	中野	200,000	260,000 (520,000)	100,000 (200,000)	2,600	562,600	922,600
		学内出身者			260,000 (520,000)	100,000 (200,000)	2,600	362,600	722,600
経営学研究科	修士課程	学外出身者	中野	200,000	260,000 (520,000)	100,000 (200,000)	2,600	562,600	922,600
		学内出身者			260,000 (520,000)	100,000 (200,000)	2,600	362,600	722,600
健康科学研究科	修士課程	学外出身者	池袋	200,000	260,000 (520,000)	100,000 (200,000)	2,600	562,600	922,600
		学内出身者			260,000 (520,000)	100,000 (200,000)	2,600	362,600	722,600
臨床心理学研究科	専門職 学位課程	学外出身者	池袋	200,000	260,000 (520,000)	210,000 (420,000)	2,600	672,600	1,142,600
		学内出身者			260,000 (520,000)	210,000 (420,000)	2,600	472,600	942,600
看護学研究科	修士課程	学外出身者	中野	200,000	260,000 (520,000)	100,000 (200,000)	2,600	562,600	922,600
		学内出身者			260,000 (520,000)	100,000 (200,000)	2,600	362,600	722,600

*学内出身者は入学金を免除します。●教科書等については、別途費用がかかります。
●2年次、3年次納付金(年額):情報科学研究科・経営学研究科※・健康科学研究科・看護学研究科:700,000円(授業料:500,000円・施設設備整備費:200,000円)
臨床心理学研究科(専門職学位課程):920,000円(授業料:500,000円・施設設備整備費:420,000円)

■社会人入学者で、通常3年のところ4年かけて修了したいと希望する者（授業料3年分を概ね4等分）

(単位:円)

区分			通学 キャンパス	入学金	授業料	施設設備整備費	学生傷害保険料	合計(入学手続時)	
				入学時のみ	半期分 (年額)	半期分 (年額)	入学時のみ	半期分 納付の場合	年額 納付の場合
情報科学研究科	博士課程	学外出身者	中野	200,000	285,000 (570,000)	100,000 (200,000)	3,300	588,300	973,300
		学内出身者			285,000 (570,000)	100,000 (200,000)	3,300	388,300	773,300
健康科学研究科	博士課程	学外出身者	池袋	200,000	285,000 (570,000)	100,000 (200,000)	3,300	588,300	973,300
		学内出身者			285,000 (570,000)	100,000 (200,000)	3,300	388,300	773,300
看護学研究科	博士課程	学外出身者	中野	200,000	285,000 (570,000)	100,000 (200,000)	3,300	588,300	973,300
		学内出身者			285,000 (570,000)	100,000 (200,000)	3,300	388,300	773,300

*学内出身者は入学金を免除します。●教科書等については、別途費用がかかります。
●2年次～4年次納付金(年額):情報科学研究科・健康科学研究科・看護学研究科:770,000円(授業料:570,000円・施設設備整備費:200,000円)
上記の長期履修学生制度を希望する場合、出願時のみ受付となり、途中で変更はできません。

■通信制大学院

(単位:円)

区分		キャンパス	入学金	授業料	施設設備整備費	合計(入学手続時)	
			入学時のみ	半期分(年額)	半期分(年額)	半期分納付の場合	年額納付の場合
情報科学研究科 (通信制)	修士課程	中野	200,000	275,000 (550,000)	75,000 (150,000)	550,000	900,000

*スクーリング受講料及び学生傷害保険費は、授業料に含まれます。●教科書等については、別途費用がかかります。

2027年度 帝京平成大学大学院 入学者選抜日程

研究科	専攻・分野	学位	募集人員	試験区分	出願期間 (出願期間内必着)	試験日	合格発表日	入学手続締切日	試験会場
薬学研究科	薬学専攻	博士	5名 (社会人枠含)	Ⅰ期	2026年 9月10日(木) ┆ 10月2日(金)	2026年 10月25日(日)	2026年 10月30日(金)	2026年 11月13日(金)	池袋キャンパス
情報科学研究科	情報科学専攻 社会情報学分野 健康情報学分野	修士	25名 (社会人枠含)						
	情報科学専攻	博士	5名 (社会人枠含)						
経営学研究科	経営学専攻	修士	20名 (社会人枠含)						
健康科学研究科	鍼灸学専攻	修士	3名 (社会人枠含)						
	柔道整復学専攻		3名 (社会人枠含)						
	健康栄養学専攻		3名 (社会人枠含)						
	言語聴覚学専攻		3名 (社会人枠含)						
	作業療法学専攻		3名 (社会人枠含)						
	理学療法学専攻		3名 (社会人枠含)						
	救急医療学専攻※		3名 (社会人枠含)						
	臨床心理学専攻	博士	2名 (社会人枠含)						
	健康科学専攻 鍼灸学分野 柔道整復学分野 健康栄養学分野 言語聴覚学分野 作業療法学分野 理学療法学分野 救急医療学分野※	博士	全分野で5名 (社会人枠含)						
看護学研究科	看護学専攻	修士	3名						
	看護学専攻	博士	3名						
研究科	専攻・分野	学位	募集人員	試験区分	出願期間 (出願期間内必着)	試験日	合格発表日	入学手続締切日	試験会場
臨床心理学研究科	臨床心理学専攻	専門職学位	15名 (社会人枠含)	Ⅰ期	2026年 7月24日(金) ┆ 8月10日(月)	2026年 8月27日(木)	2026年 8月29日(土)	2026年 9月12日(土)	池袋キャンパス
				Ⅱ期	2026年 9月10日(木) ┆ 10月2日(金)	2026年 10月24日(土)	2026年 10月30日(金)	2026年 11月13日(金)	
				Ⅲ期	2026年 11月2日(月) ┆ 11月30日(月)	2026年 12月12日(土)	2026年 12月15日(火)	2026年 12月25日(金)	
				Ⅳ期	2027年 1月5日(火) ┆ 1月29日(金)	2027年 2月14日(日)	2027年 2月17日(水)	2027年 3月3日(水)	
研究科	専攻・分野	学位	募集人員	試験区分	出願期間 (出願期間内必着)	試験日	合格発表日	入学手続締切日	試験会場
情報科学研究科 (通信制)	情報科学専攻 社会情報学分野 健康情報学分野	修士	50名	前期 (4月1日付入学)					池袋キャンパス
				後期 (10月1日付入学)	日程は決まり次第ホームページで公表				

※2027年度名称変更予定



建学の精神 基本理念 使命・目的 沿革

建学の精神

実学の精神を基とし
幅広い知識と
専門分野における
実践能力を身につけ
創造力豊かな逞しい
人間愛にあふれた
人材を養成する

帝京平成大学の基本理念

- 1 人文・社会科学と自然科学に均整のとれた教養教育を通して人間愛を培い、広聴心を涵養し、専門的能力を人類の幸福・福祉のために的確に適用できる健全な人格を養成する。
- 2 自立と不撓不屈の精神を養い、実学的に幅広く高度な専門知識と学際的な問題解決能力を備え、創造性に富む人材を育成する。
- 3 専門の学術を深く研究して成果を世界的に発信するとともに、大学の人材、施設を活用して地域社会との交流と貢献に努め、人類の発展に寄与する。

大学の使命・目的

帝京平成大学は建学の精神に則り、広く知識を授け人格の陶冶を図るとともに、深く専門の学術を教授・研究し、国際的視野に立って日本国の発展に貢献できる有為な人材を養成することを目的とする。

大学院の使命・目的

帝京平成大学大学院は建学の精神に則り、情報科学、健康科学、臨床心理学、薬学及び看護学に関する学理及び応用を教授・研究し、その深奥をきわめ、広く国際的視野に立って社会の発展に貢献できる有為な人材を養成し、以って文化・医療の進展に寄与することを目的とする。

沿革

- | | |
|-----------|--|
| 1986年 12月 | ● 千葉県市原市に学校法人帝京技術科学学園設立。 |
| 1987年 4月 | ● 帝京技術科学大学開学。 |
| 1992年 4月 | ● 帝京技術科学大学大学院情報学研究科情報学専攻修士課程開設。 |
| 1994年 4月 | ● 帝京技術科学大学大学院情報学研究科情報学専攻博士後期課程(現・博士課程)開設。 |
| 1995年 4月 | ● 学校法人帝京技術科学学園を学校法人帝京平成大学に名称変更。
● 帝京技術科学大学を帝京平成大学に名称変更。 |
| 2000年 4月 | ● 帝京平成大学大学院情報学研究科情報学専攻修士課程(通信制)開設。 |
| 2005年 4月 | ● 帝京平成大学大学院健康情報科学研究科健康情報科学専攻博士前期・後期課程(現・修士・博士課程)開設。 |
| 2007年 4月 | ● 帝京平成大学大学院健康情報科学研究科臨床心理学専攻博士前期・後期課程開設。 |
| 2008年 4月 | ● 東京都豊島区に帝京平成大学池袋キャンパス開設。
● 帝京平成大学大学院健康情報科学研究科を健康科学研究科に名称変更。 |
| 2011年 4月 | ● 帝京平成大学大学院臨床心理学研究科臨床心理学専攻(専門職学位課程)開設。 |
| 2012年 4月 | ● 帝京平成大学大学院薬学研究科薬学専攻(博士課程)、健康科学研究科健康栄養学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻、はり灸学専攻、柔道整復学専攻(修士課程)開設。 |
| 2013年 4月 | ● 東京都中野区に帝京平成大学中野キャンパス開設。
● 帝京平成大学大学院情報学研究科情報学専攻(修士・博士課程)を環境情報学研究科環境情報学専攻(修士・博士課程)に名称変更。 |
| 2014年 4月 | ● 帝京平成大学大学院健康科学研究科言語聴覚学専攻(修士課程)、病院前救急医療学専攻(修士課程)開設。 |
| 2017年 4月 | ● 帝京平成大学大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)開設。
● 帝京平成大学大学院健康科学研究科はり灸学専攻(修士課程)を鍼灸学専攻(修士課程)に名称変更。 |
| 2023年 4月 | ● 帝京平成大学大学院看護学研究科看護学専攻(博士課程)開設。 |
| 2025年 4月 | ● 帝京平成大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻修士・博士課程を情報科学研究科情報科学専攻修士・博士課程に名称変更。
● 帝京平成大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻修士課程(通信制)を情報科学研究科情報科学専攻修士課程(通信制)に名称変更。 |
| 2026年 4月 | ● 帝京平成大学大学院経営学研究科経営学専攻(修士課程)開設。 |

■交通アクセス



■池袋キャンパス



MiNoRi センtral 〒170-8445 東京都豊島区東池袋2-51-4

MiNoRi ラボ 〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-26-10

MiNoRi ネスト 〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-26-3

駅	MiNoRi センtral	MiNoRi ラボ・ネスト
池袋駅	東口から: 徒歩12分	東口から: 徒歩9分
東池袋駅	2番出口から: 徒歩10分	6番出口から: 徒歩4分
向原駅	徒歩10分	徒歩11分

■中野キャンパス



〒164-8530 東京都中野区中野4-21-2

TEL 03-5860-4711 (代表)

■『中野駅』北口から徒歩9分



帝京平成大学 大学院

<https://www.thu.ac.jp/gradschool>

入試相談 ☎ 0120-918-392 入試部 ☎ 03-5843-3200



帝京平成大学 通信教育部

<https://tsushin.thu.ac.jp/graduate/index.html>

通信教育部 ☎ 03-5860-4728

